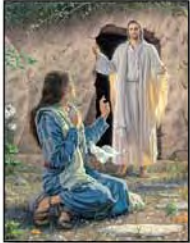


リブナ



リアホナ



表紙

表紙——「わたしの贖い主は生きておられる」ロジャー・ラブレス画。
©2002, Hadley House, ミネソタ州ブルーミントン。
裏表紙——写真/フロイド・ホルドマン, ラリーン・ポーター・ガント, ©2002 John Telford と © ASAP LTD/Index Stock版權所有。
「主はよみがえられた」2ページ, 「エルサレム」8ページ参照。



「フレンド」表紙

「野の花がどうして育っているか、考えてみるがよい」サイモン・デュイ画。
ユタ州アメリカンフォークのアルタス・ファイン・アート社の厚意により掲載。
「あなたこそ、キリストです」フレンド, 6ページを見ましょう。



2ページ参照

一般

- 1 大管長会からの手紙
- 2 大管長会メッセージ——主はよみがえられた 第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 8 エルサレム D・ケリー・オグデン
- 18 イエスの言葉——死と復活 七十人 ウォルター・F・ゴンサレス
- 25 家庭訪問メッセージ——神殿での礼拝に備える
- 26 新約聖書の時代を概観する イエス・キリストの生涯——最後の週
- 30 神様もわたしについて御自身の計画をお持ちでした
ローシエル・ウェルティとジャン・ピンボロー
- 40 末日聖徒の声
わたしの人生には目的があるのでしょうか マイケル・レンカー
断食と祈りをもって ルツ・ロドリゲス・ソテロ
リネットの証 リア・プーレ・ライト
苦しみによって結ばれる アダム・C・オルソン
- 48 『リアホナ』2003年4月号の活用法

青少年

- 22 王の王 リサ・アン・ジャクソン
- 24 ポスター——あなたの手の届くところに
- 33 アイデアリスト——時間を管理し、バランスを保つ
- 34 教会に連れ戻してくれたダンス 七十人 ネッド・B・ローシェイ
- 37 わたしの傷を癒す傷 エルビン・メンシア
- 38 福音クラシック——ダンディー 大管長 デビッド・O・マックイ
- 44 質疑応答——自分の考えや思いと聖霊がお与えになる靈感を見分けるにはどうしたらよいのでしょうか。
- 47 御存じでしたか？

33ページ参照

フレンド

- 2 預言者の声——深まるあかし
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 4 しんでんカード
- 6 分かち合いの時間——
あなたこそ、キリストです。
ビッキー・F・マツモリ
- 8 歌——イースターホサナ
バンジャ・Y・ワトキンス
- 10 新約聖書ものがたり——イエスのさいばん
／イエス、じゅうじかにつけられる
- 16 特別な証人——主なる救い主
十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン



末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会:ゴードン・B・ピンクレー, トーマス・S・モンソン, ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー, L・トム・ベリー, デビッド・B・ヘイト, ニール・A・マックスウェル, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オクス, M・ラッセル・バラード, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, ヘンリー・B・アイリング

編集長:デニス・B・ノイエンシュバンダー

顧問:J・ケント・ジョリー, W・ロルフ・カー, スティーブン・A・ウェスト

実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュコト

編集ディレクター:ピクター・D・ケーブ

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーク

編集主幹:リチャード・M・ロムニー

編集主幹補佐:マービン・K・ガードナー, ビビアン・ボールセン, ドン・L・サール

編集スタッフ:コレット・ネベカー・オース, スーザン・パレット, ライアン・カー, リンダ・ステール・クーバー, ラリー・ポーター・ガント, シャナ・ガスナビ, ジェニファー・L・グリーンウッド, リサ・アン・ジャクソン, キャリー・カステン, メルビン・リービット, メリン・ミンソン, サリー・J・オデカーク, アダム・C・オルソン, ジュディス・M・パーラー, ジョナサン・H・ステイブソン, レベッカ・M・テラー, ロジャー・テリー, ジャネット・トーマス, ポール・バンデンバーク, ジュリー・ワデル, キンバリー・ウェッブ, モニカ・ウィークス

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:J・スコット・クヌーセン, スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:フェイ・P・アンドラス, C・キンボール・ボット, ハワード・ブラウン, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, プレストン・クリスティンソン, シャリー・クック, ケリー・リン・C・ヘリン, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー, タッド・R・ピーターソン, ランドール・J・ピクストン, マーク・W・ロビンソン, ブラッド・ティアー, カリ・A・トッド, クラウディア・E・ワナー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

印刷ディレクター:ケイ・W・ブリッグス

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「[リアホナ]注文用紙」でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●[リアホナ]のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)
半年予約1,200円(送料共)
普通号/大会号200円

[リアホナ]への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3220, USA Eメール:cur-ria-hona-imag@ldschurch.org

[リアホナ] (モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, ウクライナ語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリバス語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セブアノ語, タイ語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, 中国語, チェコ語, デルグ語, デンマーク語, ドイツ語, トング語, 日本語, ハルウェー語, ハイチ語, ハンガリー語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ブルガリア語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, ラトビア語, リトアニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

© 2003 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。

印刷所:日本

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原題—International Magazines March 2003.
Japanese. 23984 300

For Readers in the United States and Canada:

April 2003 no. 4 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$15.50 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

大管長会からの手紙

以下の手紙は、2002年1月20日付で
神権指導者に送られたものです。

「神 権指導者と扶助協会指導者は、
家庭貯蔵と財政的な蓄えの大切
さを会員に教える必要がありま

す。この原則はワード評議会や、第5日曜日の神権
会および扶助協会の集会で教えることができます。

教会員は、ほかに食べる物がないうちに命を支えるう
えで必要な基本食糧を備蓄することから家庭貯蔵を始める
ことができます。住んでいる地域にもよりますが、基本食糧
には、水、小麦その他の穀物、豆類、塩、はちみつまたは砂糖、
粉ミルク、調理用油などが含まれます。……これら必須
食品について家族全員が必要とする1年分の量を備蓄できたら、
毎日よく用いる物を追加していけばよいでしょう。

中には貯蔵のためのお金や場所がない人、食糧品を年単位で
貯蔵することが法律で禁じられている国に住んでいる人もいる
ことでしょう。そのような人は、許される範囲でできるかぎり蓄
えるようにしてください。経済的に1年分の備蓄が不可能な家族
は、まず数か月分を蓄えるようにしましょう。この活動は分別を
もって行い、パニックに陥ったり極端に走ったりしない
ようにしなければなりません。入念な計画を立てること
により、また時間をかけることにより、ほとんどの教会
員は財政的な蓄えと必須食品の1年分の備蓄を達成する
ことができます。」 ■





主は よみがえられた

第一副管長

トーマス・S・モンソン

人の旅行者に、「ソルトレーク・シ
—— ティーに滞在している間、何を見
物したらよいでしょうか」と尋ね
られたことがあります。わたしはとっさに、
「テンプルスクウェアもいいですし、近くの
峡谷へドライブに出かけるのもいいでしょ
う。ビンガム銅山の見物やグレートソルトレ
ークでの水泳はいかがですか」と答えまし
た。ほんとうは「墓地で1, 2時間過ごしてみられ
たらいかがですか」という言葉が口まで出か
かっていたのですが、誤解されるといけない
ので言いませんでした。また、わたしはどこ
に旅行するときでも、可能ならその町の墓地
を訪れることにしているとは打ち明けません
でした。墓地ではいろいろな考え事をしたり、
人生の意味や皆が一度は経験しなければなら
ない死について思いをはせたりするのです。

大きな愛

ユタ州サンタクララの町の小さな墓地での
ことですが、雨ざらしになった墓碑にスイス
人の名前をたくさん見つけました。その多く
は、「シオンに來たれよ」との招きに応じて
緑豊かなスイスに親族や家を残し、この地域
に移住して開拓の業に従事し、そして今は
「安らかな眠り」に就いている人々です。彼
らは、春先の洪水や夏の干ばつ、乏しい収穫
や厳しい労働に耐え抜き、犠牲という遺産を
残してくれました。

大きな墓地には、自国のために戦った戦没
者がまつられており、感傷を誘います。戦争
によって夢を破られた人、希望を断ち切れ
た人、若くして死んでいった人々に思いをは
せずにはられません。

フランスやベルギーで何エーカーにもわた
って白い十字架が並んでいるのを見ると、第
一次世界大戦がいかに悲惨であったか、うか
がい知ることができます。フランスのベルダ
ン市は、市全体が広大な墓地であると言っ
てよいでしょう。春になって農夫が畑を耕す度
に、ヘルメットや銃身をあちこちで見つけ
るのです。こうした遺品の数々は、文字どおり
自らの血で大地を朱に染めた何百万の人々の
ことを思い出さずにはおきません。

ペンシルベニア州のゲティスバーグなど、
南北戦争の戦場となった町を旅すると、兄と
弟が戦ったその傷跡を見るような思いがしま
す。農場や財産をなくした家族もいれば、持
てるすべてを失ってしまった家族もいます。
エーブラハム・リンカーン大統領がリディ
ア・ビクスビー夫人にあてて書いた手紙を引
用しましょう。

「拜啓

戦争省の書類の中にマサチューセッツ州軍
務局長からの報告を見つけ、あなたの御子息
5人が戦場で榮譽の戦死を遂げられたことを
知りました。こうした場合、わたしがどのよ
うな言葉を申し上げても、あなたの言いよう



復活の事実こそが、
すべての人に、
人知では計り知れ
ない平安を
もたらすのです

のない悲しみをお慰めするには無力であると、承知しています。それでも、あえて一言お伝えしようとするのは、御子息たちが命を投げ出して救ってくださったこの共和国の人民がいかに感謝しているかを知っていただければ、幾分なりとも安らぎを得られるのではないかと思うからです。願わくは天の御父があなたの心の傷をお癒しになるように、また亡くなった愛する御子息たちとのよき思い出と、自由という祭壇にかくも偉大な犠牲をささげたという誇りのみをあなたの心に残してくださるよう祈るものであります。

敬具

エーブラハム・リンカーン¹

ホノルルのパンチボール墓地やマニラの太平洋記念墓地を歩いていますと、第二次世界大戦で戦死した兵士のすべてが、緑の芝生に覆われた墓地に埋葬されているのではないことがわかります。大海原を渡り、そこで死に、波の底に沈んでいった遺体が数多くあるのです。

真珠湾攻撃で亡くなった人の中に、アイオワ州フレデリックスバーグ出身のウィリアム・ボールという海兵がいました。ウィリアムが1941年のその日に散ったほかの戦死者と異なる点は、その英雄的な行為にあるのではなく、その死によって一連の悲しい出来事が故郷で起きたということにあります。

ウィリアムの幼友達で、近くの町ウォータールーに住んでいたサリバン家の息子5人は、ウィリアムの戦死の知らせを聞くとそろって海軍に志願しました。5人の兄弟はウィリアムのあだを討つために5人とも同じ戦場に出兵されるよう要請し、海軍はそれを許可しました。ところが1942年11月14日、5人の兄弟の乗った巡洋艦「ジュノー」はソロモン諸島のガダルカナル島沖合で攻撃を受け、海の藻くずと消えてしまったのです。

ほぼ2か月たってから、母親のトーマス・サリバン夫人は、通常の電報によってではなく、特使を通して、5人の息子全員が南太平洋での戦闘で行方不明になり、生存の見込みはないとの通知を受けました。結局、だれの遺体も発見されませんでした。

ただ一人の人が語った、次の一言以上に彼らの墓碑に刻むにふさわしい言葉があるでしょうか。「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。」²

「嘆きではなく、感謝」

ある人の一生がほかの人々に途方もない影響を与えるということについては、そうそう知れ渡るものではありません。

んし、ましてやめったに人の口に上ることはありません。ミューチャルで12歳のビーハイブクラスを教えていたある教師も、そのような一人でした。夫とともに心から願い求めていたのですが、この姉妹には子供がありませんでした。その代わり彼女は、永遠の真理と人生の教訓を献身的に教えることによって、大切な少女たちに愛を示しました。しかし、病魔が襲い、彼女は世を去りました。わずか27歳でした。

毎年、戦没将兵追悼記念日が来ると、ビーハイブクラスの生徒たちはお墓参りをしました。最初は7人いた教え子も4人、2人と減り、最後には1人だけとなりました。最後に残った生徒は毎年欠かさずお墓参りをし、感謝の心を象徴するアイリスの花束をささげるのが常でした。最後に残ったこの少女は後に若い女性の教師になりました。彼女がなぜ実りある人生を送っているかは明らかです。自分の教師から得た靈感を鏡のように照り返しているのです。あの教師が歩んだ人生、あの教師が与えた教訓は、墓石の下に埋もれているわけではありません。育てた生徒たちの人格と、まったく自己を顧みずに養いを与えた人生の中に今も生き続けているのです。もう一人の偉大な教師、すなわち主を思い出します。かつて主は、砂に指で文字を書いて教えを説かれました。³ 砂に書かれた文字は時の流れとともに永遠に消え去っても、主が歩まれた生涯は消え去ることがありません。

ソントン・ワイルダーは次のように書いています。「この世を去った愛する者たちについて分かることは、ただ彼らがわたしたちに、死者をもっと身近な存在として覚えるよう願っているということだ。……死者へのいちばんの賛辞、それは嘆きではなく、感謝である。」

ケラー家の少年たち

何年も前、ソルトレーク・シティーの東にある美しいヒーバーバレーで起こったことです。ある日、献身的な父親と愛にあふれた母親がこの世からの避け所である家に戻って来ると、上の3人の息子が倒れて死んでいました。その晩は非常に冷え込んで、降ってくる雪がすさまじい風で吹き飛ばされて煙突をふさいでしまったため、家中に一酸化炭素が充満してしまったのです。

ケラー家の合同葬儀は、わたしの人生で最も霊的な経験の一つとなっています。近所の人々は仕事を休み、子供たちも学校から早く帰って、心からお悔やみの言葉を述べるために教会堂に集いました。時と記憶の続くかぎり、わたしは3つの光るひつぎが、悲しみに満ちた両親や祖父母を

従えて礼拝堂の前の方に担がれていく光景を、決して忘れることはないでしょう。

最初に話をしたのは、高校のレスリングのコーチでした。コーチは長男のルイスへの弔辞を述べ、涙をこらえながら、震える声で話をしました。「ルイスは必ずしもチームの中で最も才能に恵まれた選手というわけではありませんでした。しかし、彼ほど練習熱心だった子はいません。技術に欠けるところは、強い意志で補っていました。」

次いで、青少年の指導者がトラビスについて話しました。トラビスがスカウトやアロン神権の責任をよく果たし、友達にとってすばらしい模範であったことを話しました。

最後に、いちばん下のジェーンソンについては、小学校の担任の先生が話をしました。その姿から、有能な教師であることが一目で分かる人でした。先生はジェーンソンがおとなしい子で、はにかみ屋だったことを述べた後、ジェーンソンからもらった手紙について少しもためらうことなく触れました。それは子供らしいたどたどしい字で書かれており、先生はその手紙ほど心温まるうれしい手紙をもらったことはないと話しました。内容は簡単でした。たった一言「先生が大好きです」と書いてあったのです。先生は込み上げてくる思いに声を詰まらせながら、やっとのことで話を終えました。

あの特別な日に味わった悲しみと涙から、わたしは、立派に人生を生き、地上での使命を果たしたあの少年たちが、永遠にまで及ぶ教訓を残して行ったことをしみじみと感じました。

レスリングのコーチは「単に技術面だけではなく、一人一人の選手の心を見守っていきたい」という決意を話しましたし、青少年の指導者は、すべての青少年が教会のプログラムの恩恵を十分に受けられるよう努力すると厳粛に誓いました。小学校の先生はジェーンソンのクラスの小さな子供たちの顔を、じっと見詰めていました。何も言いませんでしたが、その目は、心に深く、次のように決意するものがあることを物語っていました。その



メッセージがはっきりと伝わってきたのです。「わたしはこれから子供たち一人一人を愛していこう。少年少女の一人一人が真理を求め、才能を伸ばし、喜んで奉仕できるように見守っていこう。」

葬儀に出席したすべての人の人生観が変わりました。一人残らず、主が言われた完成に向けて努力することでしょう。その決意の源はどこにあったのでしょうか。そうです。今では悲しみと心配事を離れて安息に就いている少年たちの人生と、心を尽くして主に信頼を寄せる両親の不屈の精神です。両親は自分自身の知識に頼ることなく、あらゆる点において主を認め、主が道をまっすぐにされることを知るでしょう。⁴

この3人のすばらしい子供たちの母親がわたしに送ってくれた手紙の一部を紹介いたします。これは、子供たちが亡くなって少ししてから送られてきたものです。

「わたしも夫も、胸が張り裂けそうに感じるものがしょっちゅうあります。家庭での生

今では悲しみと心配事を離れて安息に就いているケラー家の少年たちの人生と、心を尽くして主に信頼を寄せる両親の不屈の精神から、わたしたちは靈感を得ることができます。



栄 えある復活の日、霊と肉体とが再び一つになります。この約束は、マリヤとほかの人々が園の墓に入ったときに成就しました。

活が大きく変わってしまいました。家族の半分を亡くした今、料理も洗濯も、そして買い物までも、何と変わったことでしょうか。子供たちの騒がしい話し声や、からかい合ったり、遊んだりするさまが懐かしく思い出されます。皆、なくなってしまいました。日曜日は静寂そのものです。聖餐の祝福やパスをする息子たちの姿は、今はありません。日曜日は文字どおり家族が一緒になる日でした。わたしたちはつくづく考えます。子供たちが伝道に出ることも、結婚することも、孫の顔を見せてくれることもないんだなあ。今さら生き返らせてほしい、と言うわけではありません。でも、あの子たちを喜んで手放したわけ

ではないのです。わたしたちは前と同じように、教会の責任や家庭の仕事を始めています。わたしたちの願いは、ケラー家族が永遠の家族となるにふさわしい生活をするということです。』

ケラー家やサリバン家、さらにはまた愛する家族を亡くされたすべての方々に、わたしの心からの確信と証、それにわたしの人生における実際の経験をお話したいと思います。

死、人生の新たな1ページ

わたしたちは、一人一人が前世において天の御父とともに生活していたことを知っています。この世に来たのは、完成へ向かう永遠の旅路の中で、いろいろなことを学び、生活し、進歩するためです。若くして亡くなる人もいれば、老年まで生き長らえる人もいます。しかし大切なのは、どれだけ長い間生きるかではなく、いかに正しく生きるかということです。こうして死が訪れ、人生の新たな1ページが始まるのです。では、その後はどうなるのでしょうか。

何十年も前、ある若者が横たわるベッドの傍らに立っていたときのことです。若者は二児の父親でしたが、生死の境をさまよっているところでした。彼はわたしの手を取り、じっと目を見詰めて、お願いするようにこう言いました。「監督、わたしはもう死にます。死んだときにわたしの霊がどうなるのか教えてください。」

わたしは答える前に、天からの助けを祈り求めました。ふと見ると、ベッドの傍らのテーブルにモルモン書があります。そこで手に取ると、神の導きのようにモルモン書がひとりでに開いてアルマ書第40章が出てきました。わたしは声を出して読み始めました。

「さて、わが子よ、あなたに言っておきたいことがもう少しある。死者の復活について、あなたが心を悩ましていることが分かるからである。……

さて、死と復活の間の人の状態についてであるが、見よ、天使がわたしに知らせてくれたところによれば、すべての人の霊は、この

死すべき体を離れるやいなや、……彼らに命を与えられた神のみもとへ連れ戻される。

そして、義人の霊はパラダイスと呼ばれる幸福な状態、すなわち安息の状態、平安な状態に迎え入れられ、彼らはそこであらゆる災難と、あらゆる不安と憂いを離れて休む。』⁵

この若い友人は目を閉じ、心からの感謝を表しながら、静かに今話したパラダイスへと旅立ちました。

墓を超えた勝利

続いて、栄えある復活の日が訪れます。このとき霊と肉体とが再び一つになり、もう二度と離れることはありません。悲しみに暮れるマルタに、キリストはこう言われました。「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。

また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。』⁶

「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。』⁷

「わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言うておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。……わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。』⁸

この栄光に満ちた約束は、マリヤとほかのマリヤが園の墓に入ったときに成就しました。この墓にはある御方の遺体だけが安置されていたはずでした。医者であったルカはこう記しています。

「週の初めの日、夜明け前に、女たちは……墓に行った。ところが、石が……ころがしてあるので、

中にはいってみると、主イエスのからだが見当らなかった。

そのため途方にくれていると、見よ、輝いた衣を着たふたりの者が、彼らに現れた。

……このふたりの者が言った。『あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。』⁹

「もうここにはおられない。……よみがえられたのである。』¹⁰

この事実こそ、全キリスト教徒に響き渡るおとずれです。復活の事実こそが、すべての人に、人知では計り知れない平安をもたらすのです。¹¹ そして、その愛する者たちがフランドルの草原に横たわっている人々や、大海原の底に沈

んだ人々、また小さなサンタクララの町や平和なヒーバーバレーで眠る人々に、慰めを与えてくれるのです。復活は全人類に及ぶ真理です。

わたしは主の弟子のうち最も小さい者として、死が克服され、墓を超えた勝利がもたらされたことを証します。御自身で成就なさることによって神聖なものとなった主の言葉が、わたしたちすべてにとって現実の知識となるように祈ります。主の言葉を、心に留め、かみしめ、敬いましょう。主はよみがえられました。■

注

1. *Selections from the Letters, Speeches, and State Papers of Abraham Lincoln*, アイダ・M・ターベル編 (1911年), 109
2. ヨハネ15:13
3. ヨハネ8:6参照
4. 箴言3:5-6参照
5. アルマ40:1, 11-12
6. ヨハネ11:25-26
7. ヨハネ14:27
8. ヨハネ14:2-3
9. ルカ24:1-5
10. マタイ28:6
11. ピリピ4:7参照

ホームティーチャーへの提案

よく祈って準備した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて、このメッセージを分かち合ってください。次に挙げるのはその一例です。

1. このメッセージの最初の項を家族とともに読む。彼らに墓地や葬儀での経験について話すよう勧める。復活や、最後の2段落に述べられたモンソン副管長の証について自分がどのように感じているか話す。

2. 「死、人生の新たな1ページ」という項の最初の2段落を読む。死期の近づいたこの男性の質問に自分だったらどのように答えるか、家族に尋ねる。アルマ40:1, 11-12; ヨハネ11:25-26; 14:2-3, 27から、死後の生活についてどのようなことが分かるか話してもらおう。

3. 死後の生活について少なくとも一つの質問を書くよう、家族一人一人に言う。その質問について話し合い、このメッセージに記された教えの中から、質問に答えるうえで役立つものを紹介する。

ירושלם?

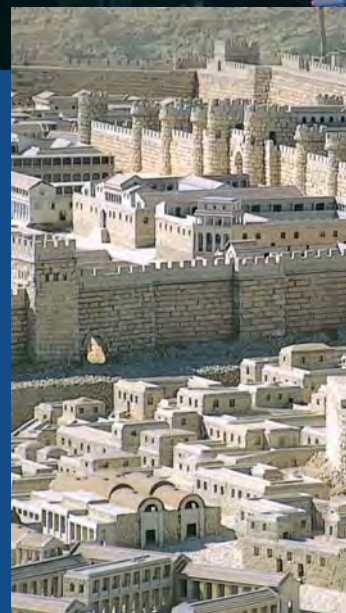
エルサレム

القدس

ユダヤ教徒、キリスト教徒、イスラム教徒はすべて、
この聖なる町で礼拝します。
そこには、彼らにとって聖なる遺跡が数多くあるのです。

D・ケリー・オグデン

エルサレム以上にこの世の歴史と運命を形成してきた町はありません。過去40世紀の間に、セム族、エジプト人、ヘテ人、アッスリヤ人、バビロニア人、ペルシャ人、ギリシャ人、ローマ人、ビザンツ人、イスラム教徒、十字軍、トルコ人、ヨーロッパ人、アラブ人、イスラエル人がその歴史のページに登場してきました。また、メルキゼデク、アブラハム、ダビデ、ソロモン、イザヤ、リーハイ、エレミヤ、アレクサンダー大王、ポンペイウス、クレオパトラ、ヘロデ、ペテロ、パウロ、ティトウス、コンスタンティヌス、ムハンマド、獅子心王リチャード、マイモニデス、サラールハッディーン、偉大なるスレイマーンなど、強烈な個性を備えた人と、その他数え切れない人々がエルサレムの過去の歴史で重要な





上——夕暮れ時のイスラム教徒の墓地とエルサレム旧市街の東側の壁。ユダヤ教徒とキリスト教徒が神殿の山と呼び、イスラム教徒が「ハラム・アッシャ・リーフ(崇高な聖所)」と呼ぶ場所の上に建っている黄金の岩のドーム(中央)とドーム型のアルアクサモスク(左端)。左端——キリストの時代のエルサレムをかたどった模型。
左——旧市街の古代の壁の外で草をはむ羊。



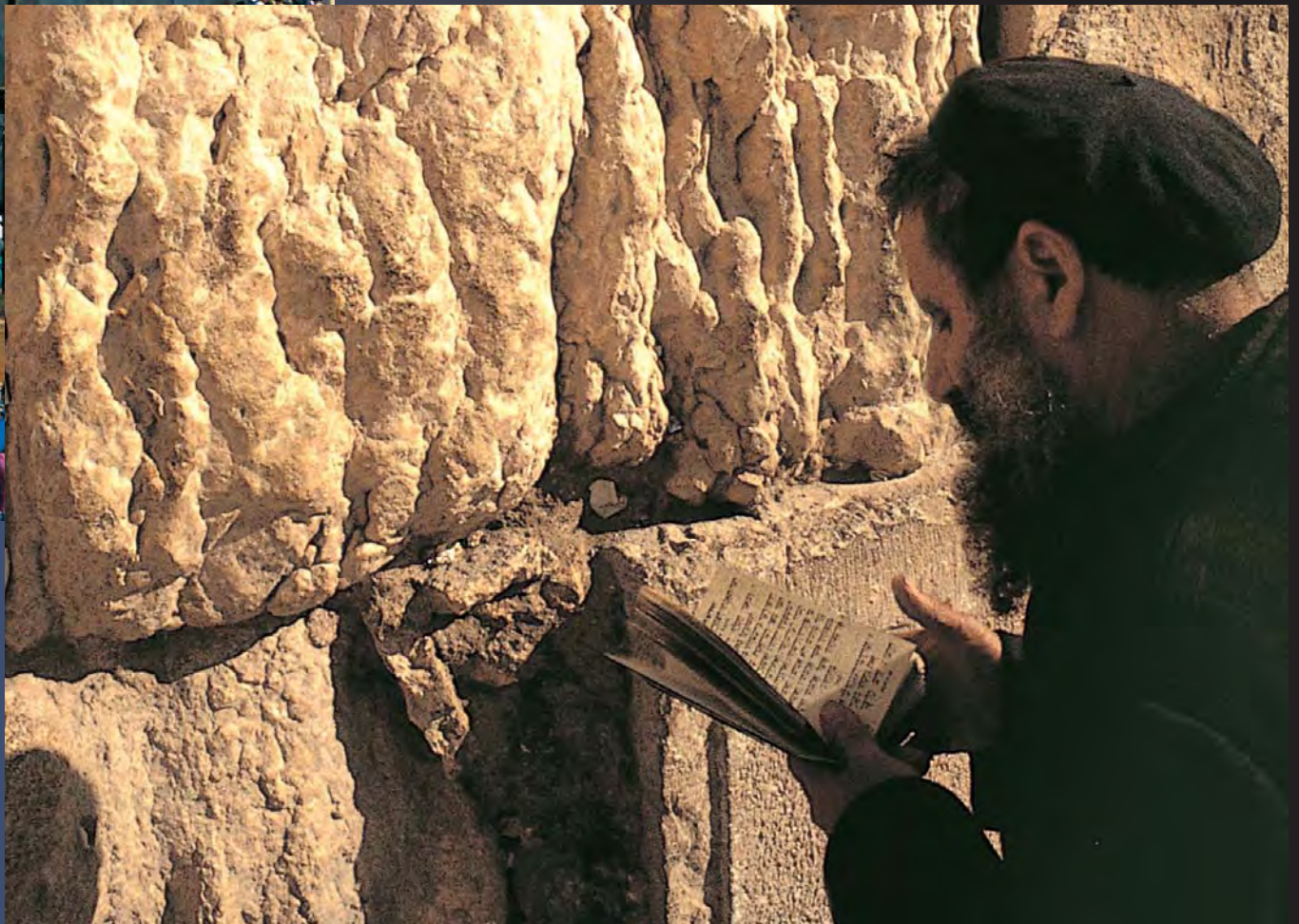
役割を果たしてきました。

エルサレムは、地中海の東部地域の十字路、すなわち3つの大陸を結ぶ世界でただ一つの地に位置するため、おのずと、国際経済、政治、宗教問題の中心地となってきました。しかしながら、経済や政治の超大国になることは決してありませんでした。その重要性和影響力はおもに宗教上の事柄から生じています。エルサレムは、神がこの世と交流を図られた象徴としていつまでも存続することでしょう。

肉における神の独り子であるイエス・キリストは、この近くでお生まれになりました。エルサレムは、^{あがな}贖い主があらゆる時代における最も偉大な業と貢献、すなわち主の贖いの犠牲と死からの復活を遂げられた場所です。こうした様々な出来



左端——神殿の山の西壁付近に
霊的な更新を願って集まるユダヤ教徒。
左挿入——男子が成人することを記念して
バルミツバーを祝うユダヤ教徒の家族。
左——岩のドームの中にアブラハムの岩がある。
アブラハムは犠牲の供え物としてこの岩の上に
イサクを乗せたという伝承がある。
この岩はイスラム教の預言者ムハンマドが
天に昇った場所であるとの伝承もある。
下——西壁(嘆きの壁)の裂け目の間に
願い事を書いた紙を挟み、
ユダヤ教の聖典を読む男性。



事がエルサレムの名を永遠に聖なるものとしてきました。

古代の世界でも近代の世界でも、過去と現在を問わず、宗教上重要な町は数々ありますが、エルサレムだけが、世界の主要な宗教の3つ、すなわち、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の中心となっています。エルサレムを一度も見たことのないおびたしい数の信者を含め、これらの宗教の信奉者にとって、この町に対する深い感情は次の言葉によって表現されます。

ユダヤ教徒——「世界に与えられた美しいものの10分の9は、エルサレムにある。」(Talmud, Kiddushin 49b)
「壮麗なエルサレムを見たことのない人は、その生涯で美しい町を一度も見たことがない人である。」(Talmud, Succah 51b)





上挿入——伝承によれば、イエスと使徒たちはこの2階の広間で最後の晩餐ばんさんを行った。
上——あるキリスト教徒たちは、イエスの遺体はこの園の墓に納められたと信じている。
左挿入——イエスの遺体はこの建物、すなわち聖墳墓教会の中にある墓に納められたと信じているキリスト教徒もいる。
左——古代からあるオリーブの木々が現在もゲツセマネの園を飾っている。

キリスト教徒——エルサレムのことを、イエスは、「それは『大王の都』である」(マタイ5:35)と言われ、また使徒パウロは、「あなたがたが近づいているのは、シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレムである」と教えています(ヘブル12:22)。

イスラム教徒——「アッラーの全地の中からアッラーが選び出されたのはエルサレムである。……エルサレムに降る露は、あらゆる病気を癒すものである。それはパラダイスの園から注がれるからである。」¹

これらの偉大な宗教はエルサレムをたたえて歌うだけでなく、神聖な場所に荘厳な数々の建物を建ててきました。エルサレムの宮殿、会堂、教会、聖堂、僧院、修道院、モスク、イエシーバ(タルムード学院)、そのほかの政治や学問、礼拝





最上部——聖なる山のアルアクサモスクに集まって祈る礼拝者たち。

上——イスラム教徒はモスクに入る前にこの泉で儀式としての洗いを行う。

(ユダヤ教徒もキリスト教徒もイスラム教徒も、聖なる儀式の前に儀式としての洗いを行う。)

左と左挿入——イスラム教にとって最も聖なる場所の一つである岩のドーム。

この建物は紀元691年に奉獻された。



の中心となる建物は、人類の歴史にあらゆる面で数え切れない影響を及ぼしています。

過去と現在の破壊的な争いの中で、エルサレムは人々から尊ばれた町として存続してきました。そして、ここはまた、主の偉大な福千年の統治の間、主と主の聖徒たちが住まう場所になるという平和な将来の約束も宿しているのです。

注

1. ワルディ・クハルディ, *Before Their Diaspora: A Photographic History of the Palestinians, 1876–1948* (1984年), 21で引用

D・ケリー・オグデンはユタ州プロボ・エッジモントステーク、エッジモント第6ワードの会員です。



左——将来メシヤが大いなる栄光のうちに
降くだって来られるオリブ山に昇る太陽。

左上方の高い木々に囲まれている場所が
オーソン・ハイド記念庭園。

ゲツセマネの園は右中央にある。

下と左の挿入——ブリガム・ヤング大学エルサレム
・センターから市街を一望する。

下——1841年に十二使徒定員会の
オーソン・ハイド長老が聖地を奉獻した場所に
通じる道。





イエスの
言葉

死と 復活

「わたしはよみがえりであり、命である。」(ヨハネ11:25)

七十人

ウォルター・F・ゴンサレス



**主の死と復活、
そして人の死と復活に
ついての主の教えを、
心に刻み込まなければ
なりません。**

約 2,000年前、エルサレム郊外の小さな村での出来事です。マリヤとマルタという二人の姉妹には、ラザロという兄弟がいました。ラザロは病気になり、亡くなりました。マリヤとマルタはラザロを深く愛していたので、大きな悲しみに胸が張り裂けるような思いでした。友人たちや隣人たちが慰めても、二人の悲しみは消えませんでした。二人がひどく悲しんでいる様子を御覧になって、イエスは深く哀れみ、涙を流されました(ヨハネ11:30-35参照)。救い主から「あなたの兄弟はよみがえるであろう」と言われたときのマルタの気持ちは、恐らくわたしたちにも想像できることでしょう(ヨハネ11:23)。マルタは、「終りの日のよみがえりの時よみがえることは、存じています」と答えました。このことから、マルタが救いの計画についてある程度理解していたことが分かります(ヨハネ11:24)。主はこのように答え、マルタに深い安堵感をお与えになりました。「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。」(ヨハネ11:25-26)

するとマルタは、主について厳かにこう証あかししました。「あなたがこの世にきたるべきキリスト、神の御子みこであると信じております。」(ヨハネ11:27)

間もなくマルタの信仰は成就し、ラザロが死者の中からよみがえりました。こうして神の力が現れて、マルタとマリヤは慰めを得たのです。

悲しみと喜び

地上で務めを果たしておられたとき、主は機会をとらえては、死と復活、特に御自身の死と復活について教えられました。先ほどのマルタのように、主の言葉は、愛する人を亡くした悲しみに耐えられるように助けてくれます。死者も福音を学び、実践する機会を得ると知っていれば、また、死者も復活し、わたしたちと同じように救われ得ると知っていれば、救い主に対する感謝の気持ちが深まることでしょう。

愛する人の死は心に悲しみをもたらします。ラザロが死んだとき、マルタとマリヤが泣いて悲しんだのはもっともなことです。別の折にも同じようなことがありました。救い主が弟子たちに、「しばらくすれば、わたし



を見なくなる。またしばらくすれば、わたしに会えるであろう。……わたしの父のところに行く〔のだから〕と言われた時のことです（ヨハネ16：17）。弟子たちは、それがどのような意味か分からずに、不安になりました。そこで主はその意味を説明されます。あなたがたはわたしの死を「泣き悲しむ」が（ヨハネ16：20）、その悲しみは喜びに変わるであろう、と。

そして、救い主は悲しみと喜びという対照的な感情について、次の平易なたとえで教えられました。「女が子を産む場合には、その時が来たというので、不安を感じる。しかし、子を産んでしまえば、もはやその苦しみをおぼえてはいない。ひとりの人がこの世に^{うま}生れた、という喜びがあるためである。」（ヨハネ16:21）マリヤとマルタのように、弟子たちも、死と復活についての主の言葉に慰められました。死は復活と永遠の命へ到るための必要な段階です。そのことを理解すれば、悲しむ心は慰めを得、やがて喜びにさえ変わります。

このすばらしい救いの計画について十分知識を得るならば、悲しみは和らぐことでしょう。不死不滅と永遠の命について理解すれば、将来に対する希望がもっと大きくなるので

マ リヤとマルタはラザロを深く愛していたので、大きな悲しみに胸が張り裂けるような思いでした。救い主から「あなたの兄弟はよみがえるであろう」と言われたときのマルタの気持ちは、恐らくわたしたちにも想像できることでしょう。

す。ラザロが最後の日に復活することを知っていたマルタは、そのことに対して希望を持っていました。

しかし、このような知識があっても、愛する人に会えない毎日は、寂しいものです。そのようなときに、救い主がわたしたちの罪を贖^{あがな}って復活されたことや、そのおかげですべての人が復活できるようになり、さらには永遠の命を得る道も開かれたということを理解するなら、愛する人に会えない苦痛を乗り越えることができるでしょう。

救い主の死と復活

ある晩、ニコデモというパリサイ人が、救い主のところへやって来ました。主の奇跡に心を動かされ、勧告を求めてやって来たのです。イエスはそのニコデモに、人は生まれ変わらなければならないと教えられました。そして、「ちょうどモーセが荒野でへびを上げたように、人の子もまた上げられなければならない」と預言されました（ヨハネ3：14。モーセ7：55も参照）。

贖い主がこの預言を述べられるのを聞いたのは、ニコデモだけではありませんでした。イエスは弟子たちにこのように教えておられます。「人の子は人々の手にわたされ、彼らに殺され、殺されてから3日の後によみがえるであろう。」（マルコ9：31）

主はその務めの最後の週に、これから御自分の身に起こることについて語り続けておられました。御自分に会いたがっているギリシャ人たちがいるとアンデレとピリポが言いに来たときにも、イエスは次のように教えておられます。「人の子が栄光を受ける時がきた。よくよくあなたがたに言うておく。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる。」（ヨハネ12：23-24）

モルモン書の預言者アビナダイも同様にこう教えています。「墓は勝利を得ず、死のとげはキリストにのみ込まれてしまう。キリストは世の光であり命であられる。まことに、決して暗くなることのない無窮の光であり、また決して死ぬことのない無窮の命であられる。」（モーサヤ16：8-9）

わたしたちの復活と昇栄

救い主のおかげで、わたしたちは亡くなった人々との再会を待ち望むことができます。再び彼らに会い、抱き合い、愛を表すことが必ずできるという確信を抱けるとは、何とすばらしい祝福でしょう。

預言者ジョセフ・スミスはこのように説明しました。「こ

の興味深いテーマについて示現で見たことを話したら、皆さんは奇妙に思うかもしれませんが。……この示現はとてもしっかりとしていました。死者が墓から出て来る前にゆっくりと起き上がる様子が見えました。彼らは互いに手を取り合って言いました。『お父さん！ 息子よ！ お母さん！ 娘よ！ お兄さん！ お姉さん！』ですから、死んだ人たちに『起きなさい』という声かけられるときに、もしもわたしの体が父のそばに横たえられていたとしたら、どれほどの喜びを味わうことでしょうか。父、母、兄弟姉妹に会えるのです。お互いにそばにいれば、その場で抱き合うことができるのです。』¹

贖い主の神聖な犠牲のおかげで、すべての人が復活し、昇栄が可能になったという事実だけでも、永遠に主に感謝すべきではありませんか。主はよみがえりであり、命です。わたしたちはそのことを世に証しているのです。

生者も死者も主の声を聞いて命を得る機会にあずかります。しかし、幕の向こう側の人も、こちら側にいる人も、福音のすべての祝福を受けるためには、ある条件に従わなければならないなりません。救い主はこれらの条件の一つをこのようにマルタに説明されました。「わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。」（ヨハネ11：25-26）主に対する信仰は福音の第一の原則です。主に対する信仰により、わたしたちは悔い改めるよう促され、神と聖約を交わして守るように導かれ、ついには永遠の命を得ることができるのです。

主の戒めに従い、聖約に忠実であるかぎり、わたしたちは家族との再会を待ち望むことができますし、永遠の命という祝福を期待することができます。イエス・キリストはこのように述べておられます。「善をおこなった人々は、生命を受けるためによみがえり、悪をおこなった人々は、さばきを受けるためによみがえって、それぞれ出てくる……。」（ヨハネ5：29）この節について、預言者ジョセフ・スミスはこう説明しています。「ある人はよみがえって神のような栄光にあずかり、ある人はよみがえった後で自分の汚れに対する罰を受けるのです。その苦痛は、火と硫黄の池に投げ込まれるような激しいものとなるでしょう。」²

悔い改めは、「罰の定め^{かき}の復活」を避けるための鍵です。真心から悔い改めるなら、救いの偉大な計画がわたしたちの益になるように作用するでしょう。わたしたちの「贖い主は、肉体において死を受けた。それによって、すべての人が悔い改めて自分のもとに来ることができるように、主はすべての人の苦を引き受けた。そして、悔い改めを条件

として、すべての人を自分のもとに導くことができるように、主は再び死者の中からよみがえったのである。](教義と聖約18:11-12)

レーマン人の預言者サムエルは、悔い改めと喜ばしい復活の関係を十分に理解していました。彼は大胆に城壁の上に立って、このように教えました。「キリストの復活は人類、まことに全人類を贖って主の御前に連れ戻す。そして、それは悔い改めの条件を果たし、悔い改める者は、切り倒されて火の中に投げ込まれることはないが、悔い改めない者は皆、切り倒されて火の中に投げ込まれる。」(ヒラマン14:17-18)

復活と昇栄に関する約束を学ぶにつれて、救い主に対する信仰と、悔い改めて主のもとへ戻りたいという願望がだんだん深く、強くなります。

教えを心に刻む

わたしはよみがえりであり、命であるとマルタに言われた後、救い主はマルタにこう問われました。「あなたはこれを信じるか。」マルタの答えは大きな信仰を表していました。「主よ、信じます。あなたがこの世にきたるべきキリスト、神の御子であると信じております。」(ヨハネ11:26-27)

わたしたちもこのように自問することができます。「わたしは不死不滅と永遠の命に関するイエスの言葉を信じているだろうか。亡くなった愛する人々との幸福な再会を信じているだろうか。」これらの真理を生活の中心にすればするほど、わたしたちはさらに自信を持ち、強い証^{あかし}を得て「イエスはキリストであり、神の御子であられる」と言えるようになるでしょう。

主の死と復活、そして人の死と復活についての主の教えを、心に刻み込まなければなりません。あるとき主の弟子たちが主の内にある神の力について不思議に思っていると、救い主はこう言われました。「あなたがたはこの言葉を〔心〕におさめて置きなさい。人の子は人々の手に渡されようとしている。」(ルカ9:44。ジョセフ・スミス訳ルカ9:44 [英

文]も参照)

預言者ジョセフ・スミスはこのように教えました。「神は天から御子をお遣わしになり、復活の教義を示されました。ですからわたしたちは、地上で埋葬された人々を神がよみがえらせてくださると知っています。よみがりの時には、人は神から不死不滅を着せられ、大いなる神の御霊^{みたま}によって生きるのです。…この真理を心に刻んでおきましょう。そうすれば、復活のときに抱く完全な喜びを、今この地上にいながらにして少しずつ味わうことができるのです。」³

死と復活に関する救い主の教えを研究すれば、不死不滅と永遠の命に対する希望が大きくなります。この希望は、きっとマルタとマリヤが抱いた希望と同じものです。この希望は、わたしたちの心に喜びを満たしてくれるものです。なぜなら、救い主は「あなたの〔愛する人〕はよみがえるであろう」と約束しておられるからです(ヨハネ11:23)。■

注

1. *History of the Church*, 第5巻, 361-362
2. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールドディング・スミス選(1976年), 361
3. *Teachings*, 296

救い主のおかげで、わたしたちは
亡くなった人々との
再会を待ち望むことができます。
再び彼らに会い、
抱き合い、
愛を表すことができます。



王の王

リサ・アン・ジャクソン

わたしは王や女王の墓の前に立っていましたが、空の墓について思いを巡らせていました。

ウェストミンスター寺院は、ロンドンのテムズ川の岸辺からさほど遠くない所に建つ、石でできた荘厳な大聖堂です。900年以上にわたって宗教や文化の中心となってきました。1066年以來、二人を除くすべてのイギリスの君主がここで戴冠式を挙げ、多くの結婚式が行われ、多くの人々がここに眠っています。

イギリスでの伝道を終えたとき、わたしはこの有名な建物を訪れました。大聖堂を通り抜け、地下へと続く回廊を進みました。ゆっくりと歩きながら、この建物の荘厳さと美しさに心を奪われていると、数々の墓碑があることに気

づきました。納められた人物の名前を見て驚きました。だれもが知っている名ばかりだったからです。エリザベス1世、アイザック・ニュートン、チャールズ・ディケンズなどの名前がありました。ほかにも名だたる政治家、有名な思想家、それにイギリスの王家の人々が名を連ねていました。歴史の教科書で、何度も目にした人々です。

わたしはとりわけ、王や女王たちの墓に興味を持ちました。大英帝国を支配し、わたしたちには想像もつかないような強大な権力をこの地上で掌握していた人々です。在位中は、世界で最も影響力のある人物の中に数えられています。

しかし、この人々のかつての権力はどこへ行ってしまったのかという思いが頭から離れませんでした。王も女王も、



今ではちりに返ってしまったのです。石でできた墓のふたを開けてみたとしても、中には骨だけが残っているのです。ここに眠っている王や女王たちは、現代のわたしたちにどのような影響を与えているのでしょうか。

そのときわたしは、王の王について考えました。その墓には遺体がありません。墓の石が転がされたとき、遺体はなかったのです。王の王は、不死の体によみがえられ、今も生きておられます。

「主の影響力は、現在どこにあるのでしょうか。」それまで18か月間、イギリス北部に住む人々を教えてきた経験を振り返りながら考えました。エリザベス女王ではなく、チャールズ・ディケンズでもない、イエス・キリストの影響力です。そして自分が今立っている大聖堂について考えてみま

した。この建物は、完全な福音が回復される以前のものですが、救い主の教を宣べ伝えるために建てられたのです。わたしは、自分が救い主に対して抱いている気持ちを思い返してみました。

そのときわたしは復活について、これまでとは違った点で理解することができました。救い主の墓は確かに空なのです。救い主は確かに復活されたのです。救い主は生きておられます。そしてその影響力は、今も人々の心と思い、そして生活を根底から永遠に変えているのです。■

リサ・アン・ジャクソンは、教会機関誌スタッフの一員です。



あなたの 手の届くところに

救い主はあなたの心と体の痛みを癒^{いや}してくださいます。

救い主の方へ手を伸ばしてください。

(マルコ5:25-34参照)

神殿での礼拝に備える

以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を分かち合い、あなたが教える人々も同様に行うよう勧めてください。

教義と聖約第109章13節, 15節——カートランド神殿の奉獻式で預言者ジョセフ・スミスは次のように祈りました。「主の宮の敷居を越えて入って来るすべての者が、……聖霊の全きを受け、あなたの律法に従って組織され、すべての必要なものを得るために備えられますように。」

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー——「これらのすばらしく、かつたぐいまれな建物、そして、そこで執行される儀式は、わたしたちの礼拝の究極の姿を表しています。これらの儀式は、わたしたちの神学の最も深遠な表現となっています。わたしはすべての会員の方々に、神殿推薦状を持つにふさわしい生活をし、それを貴重な財産と考へて大切に、これまで以上の努力を払って主の宮に参入し、そこで受ける御霊と祝福にあずかるようにと、……強くお勧めします。」（『伝道と神殿、そして管理の職』『聖徒の道』1996年1月号, 60）

十二使徒定員会会長代理 ボイド・K・パッカー——「神殿で行われる儀式は、単純明快なものです。また、美しく、神聖なものです。そして、準備のできていない人々に施すことがないように隠されています。神殿に参入するための準備とは、好奇心を持つことでもなければ、深い興味を抱くことでもありません。そのようなことではなく、信仰を持ち、悔い改め、バプテスマを受け、確認を受け、ふさわしい生活をし、主の宮に招かれる客にふさわしく成熟し、尊厳を備えるという基本的なステップを踏むことなのです。」（『聖き宮居』『聖徒の道』1992年6月号, 17）

十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン——「神殿に参入する備えをするときに、特に心に留めておかなければならない概念が二つあります。一つ目は聖約です。聖約とは一種の約束であることを覚えて

おかなければなりません。神と交わした聖約は拘束するものではなく、守りを与えるものと見なすべきです。主との聖約はわたしたちを危険から守ってくれます。……

心の備えにおいて強調すべき第2の概念は贖罪です。イエス・キリストの贖いは人類歴史の中心となる出来事です。救いの計画の中核を成しています。永遠の贖罪なしでは全人類は絶対的に失われてしまいます。神殿の儀式や聖約は贖罪が持つ贖いの力について教えます。」（“Prepare for Blessings of the Temple”, *Ensign*, 2002年3月号, 21-22）

中央扶助協会第一副会長、キャスリーン・H・ヒューズ——「神殿は平和の家、啓示の家、祈りの家です。ですからわたしたちは天の御父の娘である自分たちのために神殿で用意されている祝福や賜物を享受できるよう備えなければなりません。神殿の祝福を受ける備えをするには、謙遜、祈り、そして思慮深い気持ちで神殿に行くこと、また世と世の煩い事を自ら進んでわきに置くことが必要です。神殿に参入している間は、心を集中し、積極的な気持ちで深く考えながら自分やほかの人々のための儀式に耳を傾け、参加します。」

● これまで、神殿での礼拝を通してどんな祝福を受けてきましたか。

● 神殿から遠く離れた場所に住んでいる場合、どのようにして神殿の祝福を受けられますか。■



新約聖書の時代を概観する イエス・キリストの生涯 ——最後の週

紀元34年春 過越の6日前 過越の5日前

出来事	4 5	6 7 8 10
旅行 1 3		
説教		9
奇跡 2		
たとえ		
モルモン書 80		

日付は大まかなものです。
*ユダヤの習慣によれば、一日は日没とともに始まります。

- ヨハネ11:7 イエスは最後の時を迎えるためにエルサレム地方へ戻られた。
- ヨハネ11:1-53 イエスはラザロを死からよみがえらせられた。
- ヨハネ11:54 イエスはエフライムの町に行かれた。
- ヨハネ12:1-8 マリヤはベタニヤでイエスの足に香油を塗った。
- ヨハネ12:9-11 祭司長たちはイエスとラザロを殺そうと相談した。
- ジョセフ・スミス訳マタイ21:1-6(英文) イエスに命じられたとおり、二人の弟子はろばを連れて来た。
- ジョセフ・スミス訳マタイ21:7-11(英文) イエスはろばに乗ってエルサレムへ勝利の入城をされた。多くの者がイエスを王として迎えた。
- ルカ19:41-44 イエスはエルサレムのために泣かれた。
- ヨハネ12:20-50 神殿で数人のギリシャ系ユダヤ人に天の御父についてお教えになった。
- マタイ21:12-16 イエスは2度目に両替人たちを神殿から追い出された。
- マタイ21:17 ベタニヤへ戻られた。

- マタイ21:18-22 イエスはエルサレムへ戻られる途中、実のなっていないいちじくの木をのろわれた。
- マタイ21:23-46 祭司長たちはイエスの権威を疑い、イエスに非難された。
- マタイ21:28-22:14 二人の息子、悪い農夫たち、王の婚宴のたとえ。
- マタイ22:15-46 敵はイエスを言葉のわなにかけようとする。イエスは、ローマの税金、結婚、復活、大切な戒めに関する彼らの質問にお答えになる。
- マルコ12:41-44 イエスは神殿のさい銭箱に向かって1コドラントを入れるやもめにお気づきになった。
- マタイ23:1-36 偽善について群衆に警告された。
- マタイ23:37-39 再びエルサレムのために嘆かれた。
- マタイ24-25章;ジョセフ・スミス-マタイ1章 オリブ山で弟子たちにエルサレムの破壊と再臨のしるしについて教えられた。
- マタイ25章 10人のおとめ、タラント、羊とやぎのたとえ。
- マタイ26:1-2 イエスは、御自分は2日後に十字架につけられると弟子たちに告げられた。

過越の4日前

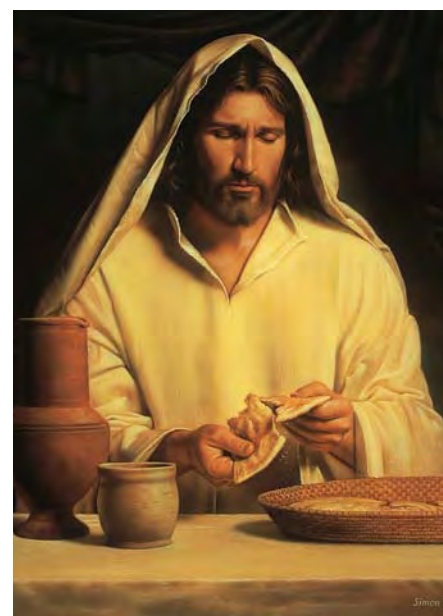
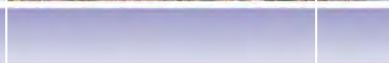
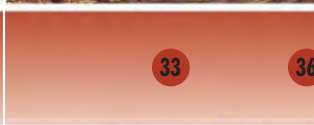
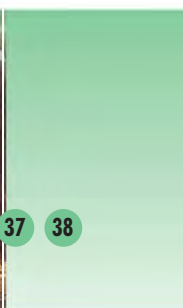
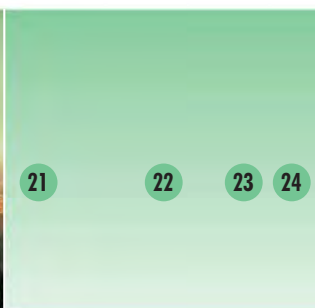
3日前 過越の2日前

午後6時*

除酵祭の初日

午後9時

夜半



22.マタイ26:3-5 祭司長たちは再びイエスを殺そうと相談した。

23.マタイ26:6-13 イエスはらい病人のシモンの家を訪問された。一人の女性がイエスの葬りの用意をするためにイエスの頭に香油を注いだ。

24.ルカ22:3-6 イスカリオテのユダは祭司長たちにイエスを売り渡す取り決めをした。

25.ルカ22:7-13 弟子たちは過越の食事のため2階の部屋を準備した。

26.ルカ22:14-38 日が暮れてから、イエスは十二弟子たちと最後の晩餐を取られた。

27.ヨハネ13:18-30 イエスは弟子たちのうちの一人が自分を裏切ろうとしていると告げられた。ユダはその場を立ち去った。

28.マルコ14:22-25 イエスは聖餐を制定された。

29.ヨハネ13:2-17 使徒たちの足を洗われた。

30.ヨハネ13:31-35 イエスは弟子たちに、御自身が彼らをお愛されたように互いに愛し合うよう教え命じられた。

31.マルコ14:27-31 イエスの弟子たちはイエスに忠誠を誓った。

32.ヨハネ14章 イエスは御自身が御子であられることについて証し、慰め主について教えられた。

33.ルカ22:39 弟子たちとともにオリブ山へ出かけられた。

34.ヨハネ15-16章 弟子たちにまことのぶどうの木、愛、敵対する者、御自身の差し追った死について教えられた。

35.ヨハネ17章 イエスは弟子たちと弟子たちを通して御自身を信じるすべての者たちのために天の御父への執り成しの祈りをささげられた。

36.ヨハネ18:1 弟子たちとともにゲツセマネの園に到着された。

37.マルコ14:32-42;ルカ22:40-46 イエスはベテロ、ヤコブ、ヨハネを連れて園へお入りになった。イエスは祈られた。天使がイエスを慰めた。イエスが戻られると3人の弟子たちは眠っていた。イエスはもう一度祈られた。全身の毛穴から血を流された。3人の弟子たちはまだ眠り続けていた。イエスは3度目の祈りをささげられた。弟子たちを起こされた。

38.ルカ22:47-48;ヨハネ18:2-9 イスカリオテのユダは接吻をもってイエスを裏切った。イエスを訴える者たちは地に倒れた。

左から「エルサレム勝利の入城をキリストの二階」ハリ・アンダーソン画。まあ、エルサレム・グレッグ・オルセン画。フロリダ州ベニス、ミル・ボンド・プレス社。ザ・シモン・ユダ・フラス（E.M.のO.T.）コレクションから掲載。「接吻によりイエスを裏切るユダ」ジェームズ・T・フォント画。「わたしの記憶に」ウォルター・レーン画。教会歴史美術博物館の厚意により掲載。最後の晩餐「サイモン・デユイ画」ユタ州アメリカン・アート・フェスティバル。アルタス・ファイン・アートの厚意により掲載。「買ひし人」ウォルター・レーン画。教会歴史美術博物館の厚意により掲載。

真夜中

午前3時

午前6時

午前9時

真昼

午後3時

出来事

37 38 39 41



44 45 46 47

49 51 53 55 56 58

59 60 61 62 63

旅行

42

43

50 52 54 57

説教

48

奇跡

40

たとえ

モルモン書

- 39.ヨハネ18:10-11 ペテロはイエスの逮捕を阻もうとした。
- 40.ルカ22:49-51 イエスは大祭司の僕の耳を癒された。
- 41.マルコ14:46, 48-52 イエスは捕らえられた。弟子たちは逃げた。
- 42.ヨハネ18:13 イエスはまずアンナスの宮殿に連れて行かれた。
- 43.ヨハネ18:24 カヤパのところへ送られた。
- 44.ヨハネ18:14-23 カヤパはイエスを尋問した。下役の一人がイエスの顔をたたいた。
- 45.マタイ26:59-68 議会の役員たちはイエスに尋問し、嘲弄し、つばを吐きかけ、たたいた。
- 46.ルカ22:56-62 ペテロは3度イエスを知らないと言った。
- 47.ルカ22:66-67 イエスは夜が明けたときに、全議会から尋問を受けられた。
- 48.マタイ27:1;ルカ22:67-71 御自身が神の御子であると宣言された。イエスは死刑を宣告された。
- 49.マタイ27:3-10 ユダは首をつった。
- 50.ヨハネ18:28 イエスはローマの官邸へ連れて行かれた。
- 51.ヨハネ18:29-38 ピラトはイエスを尋問したが、イエスに何の罪も見いだせなかった。

イエスの時代のエルサレム

- 58 ゴルゴタ
- 64 園の墓

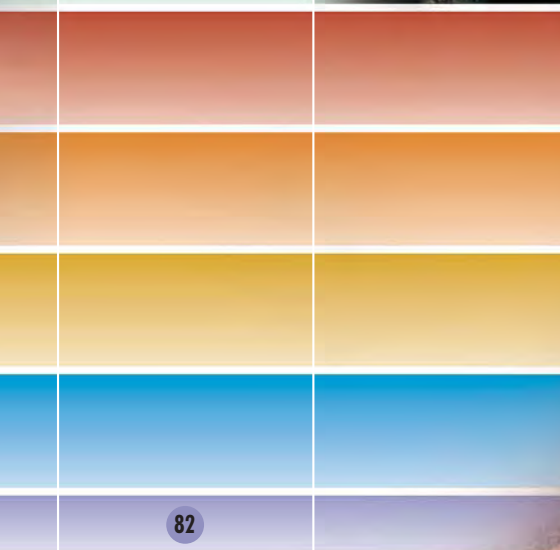
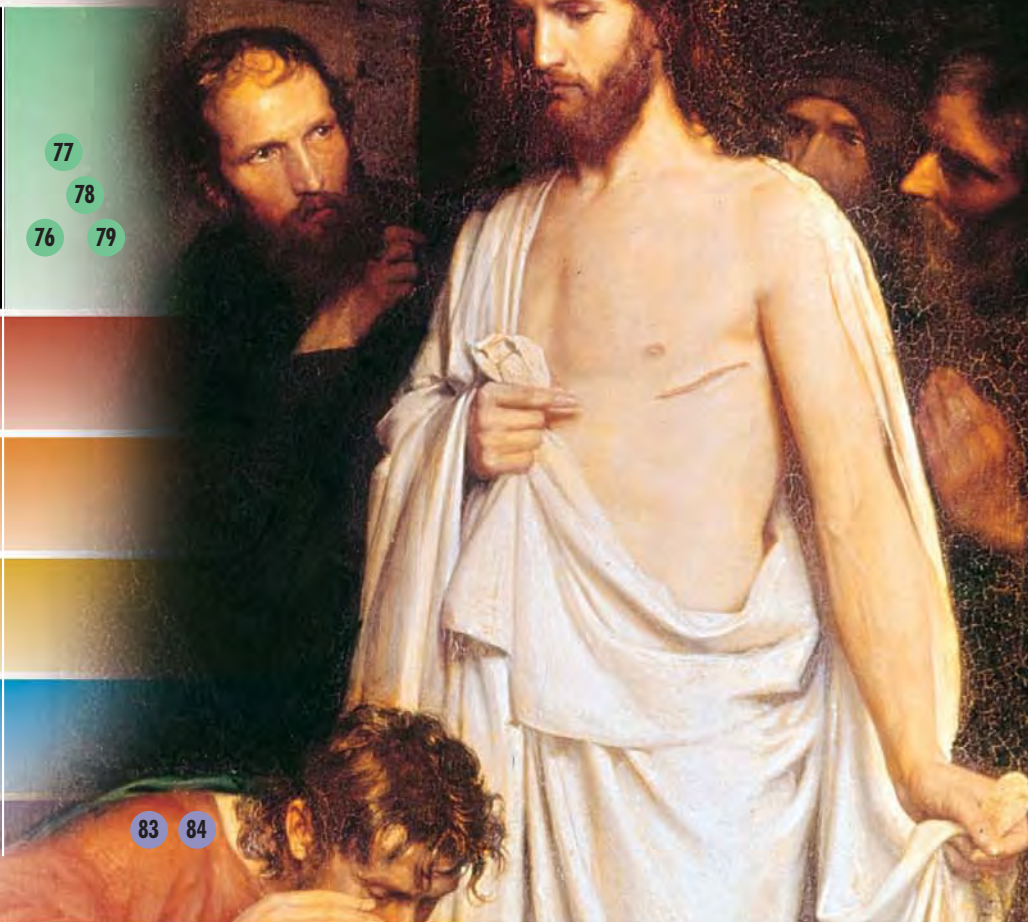
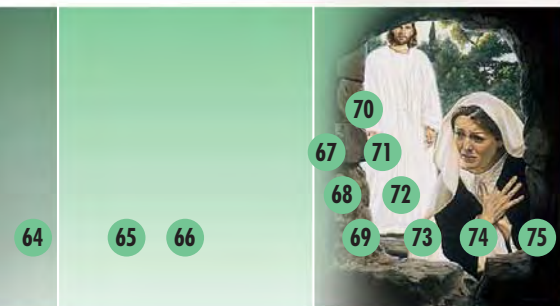


- 52.ルカ23:6-7 ピラトはイエスをヘロデ・アンティパス王のもとに送った。
- 53.ルカ23:8-12 ヘロデはイエスを尋問し、あざけった。

- 59.マルコ15:29-32 イエスは十字架につけられたままあざけられた。
- 60.マルコ15:33 暗闇が3時間全地を覆った。
- 61.ヨハネ19:29 イエスは酔いぶどう酒を差し出された。

- 54.ルカ23:11 イエスはピラトのところへ送り返された。
- 55.ルカ23:13-25 ピラトはイエスを釈放するよう提案したが、民衆は「十字架につけよ」と言った。ピラトはバラバの方を釈放した。
- 56.ヨハネ19:1-16 イエスは鞭で打たれ、いばらの冠をかぶらされ、紫の上着を着せられ、ローマの兵卒に平手で打たれた。ピラトは再度イエスを釈放しようとしたが、民衆は十字架につけることを望んだ。
- 57.マルコ15:20-22 イエスはゴルゴタに連れて行かれた。
- 58.マルコ15:23-28;ヨハネ19:23-24 イエスは釘で十字架に打ちつけられた。兵卒たちはくじを引いてイエスの着物を分けた。

81



82

83 84

- 62.マルコ15:37-38 最後の言葉を残し息を引き取られた。地震が起こり、神殿の幕が真二つに避けた。
- 63.ヨハネ19:31-37 一人の兵卒がやりでイエスのわきを突き刺した。
- 64.ヨハネ19:38-42 日没前に、イエスの体は墓に横たえられた。
- 65.マタイ27:62-66 祭司長とパリサイ人たちは墓に封印し、番人を置いて墓の番をさせた。
- 66.教義と聖約138:11-24 イエスはその体を墓に横たえている間に、霊界の義人たちを訪問された。
- 67.ジョセフ・スミス訳、マタイ28:2-4 [英文] イエスが復活されたときに、地が震い、天使が墓の封印を解いた。
- 68.マタイ27:52-53 霊界にいる義人の霊が復活した。
- 69.ジョセフ・スミス訳マタイ28:1-8 [英文]; ジョセフ・スミス訳マルコ16:3-6 マグダラのマリヤを含む数人の女性が墓を見に来ると、墓は開いており、女性たちは天使に会い、弟子たちに伝えるために走って行った。
- 70.ヨハネ20:2-10 ベテロとヨハネは墓へ向かって走って行ったが、墓は空だった。

- 71.ヨハネ20:11-17 イエスは墓でマグダラのマリヤに御姿を現された。
- 72.ルカ24:34 ベテロに御姿を現された。
- 73.マタイ28:9-10; ルカ24:10-11 ほかの女性たちに御姿を現された。その女性たちは弟子たちにイエスの復活について証した。
- 74.ルカ24:13-35 エマオへ向かっていた二人の弟子たちに御姿を現された。
- 75.ルカ24:36-48; ヨハネ20:19-25 エルサレムで、集まっていた弟子たちに御姿を現されたが、トマスはそこにいなかった。
- 76.ヨハネ20:26-29 8日後、トマスやほかの弟子たちに御姿を現された。
- 77.ヨハネ21:1-23 ガリラヤの海で7人の弟子たちに御姿を現され、ベテロに「わたしの羊を養いなさい」と言われた。
- 78.マタイ28:16-20 ガリラヤで11人の弟子たちに御姿を現された。
- 79.ルカ24:49-53; 使徒1:1-11 復活から40日後、オリブ山から昇天された。二人の天使がイエスは同じ有様でまたおいでになると約束した。



モルモン書

- 80.3ニーファイ8:2-3 アメリカの義にかなった人々はキリストの死のしるしを熱心に探し始めた。
- 81.3ニーファイ8:5-19 激しい嵐や地震によってアメリカ大陸の全地を破壊が襲った。
- 82.3ニーファイ8:20-10:9 暗闇が3日の間、全地を覆った。イエスは、より義にかなったアメリカ大陸の民に天から語りかけられた。
- 83.3ニーファイ11:1-26:15 アメリカの住民を訪れ教えられた。
- 84.3ニーファイ16:1-3 イエスはイスラエルの家に属する行方の知れない他の羊を訪れられた。

神様も わたしについて 御自身の計画を お持ちでした



ローシェル・ウェルティとジャン・ピンボロー

主はインドの少女、アンナプルナ・グル・ムララを少しずつ助けることによって、少女が自分の夢と自分にかかわる神の計画を成就できるようにしてこられました。

多 くの場、少女の日記というものは夢の記録です。アンナプルナ・グルの日記には最も大切にしてきた望みが記されていました。こう書いています。「いつの日か、わたしは神殿に行きます。」

この言葉を書いたとき、アンナプルナは教会員ではありませんでした。インドのハイデラーバードで育ったアンナプルナは、幼いころカトリックの学校に通い、キリスト教についてある程度学んでいました。そして1992年、兄のムルシーが末日聖徒の宣教師に出会い、バプテスマを受けたのです。アンナプルナは14歳のときに、兄からモルモン書を受けました。彼女はこう回想しています。「一度読んでみて、真実だと感じました。」

アンナプルナはそれまで大いに疑問に思っていたことへの答えを福音の中に見つけました。特に、死んだ後どうなるのかという疑問です。しかし、福音が真実であると信じるのと同じくらいにもう一つ確信していることがありました。それは、両親はキリスト教会に入ることを許してくれないだろうということでした。

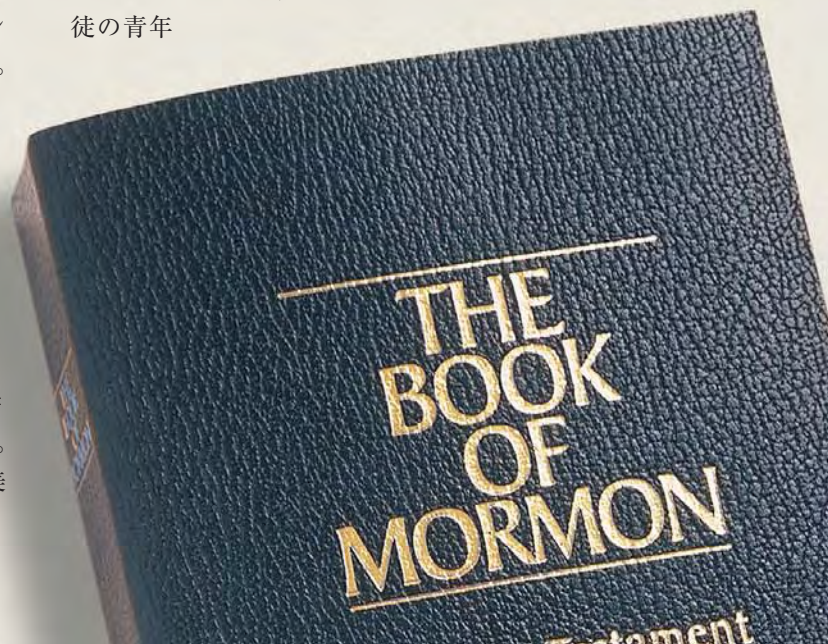
10代の残りの間、アンナプルナは新しい信仰を静かに守り続けました。モルモン書と聖書を読み、お祈りもしました。自分で学べることはすべて学びました。そして心の中に、美

しい夢を描くようになりました。その夢とは、いつの日か末日聖徒の男性と結婚することであり、いつの日か、神殿に行くことでした。アンナプルナは、いつの日か、子供に、自分には与えられなかった大切な贈り物、すなわち主の教会の会員資格を上げたかったのです。

奇跡に奇跡を重ね

アンナプルナが20歳で短大を卒業するころには、両親は愛する娘のために伝統的な見合い結婚を用意していました。しかし、アンナプルナは自分の夢が実現不可能だとは決して思いませんでした。なぜなら、自分だけの夢ではないと感じていたからです。「わたしには大きな夢がありました」と彼女は語っています。「しかし、実は神様もわたしについて御自身の計画をお持ちでした。」

アンナプルナが21歳のとき、奇跡に奇跡を重ねるような方法で、主の計画が現実となり始めました。まず初めに、サントシュ・ムララという忠実な末日聖徒の青年





に出会ったことです。青年がハイデラーバードの実家に滞在していたときです。医大生であったサントシュは、車で2日の所にあるチャンディーガルで外科の実習をしていました。アンナプルナとサントシュは出会ったとき、30分ほど言葉を交わしました。この短い会話の後、サントシュは、友人で当時インド・バンガロール伝道部の部長であったニール・トウィッチェルに電話をかけ、こう打ち明けました。「すばらしい女性です。」サントシュは、彼女こそ探し求めていた女性だとはっきり感じました。アンナプルナにとっても、サントシュは初めて出会った末日聖徒の青年でしたが、やはりこの人こそ自分が祈り求めてきた男性だと感じました。

二人は文通を始め、お互いの気持ちを確かめ合いました。数か月後、二人は結婚しました。アンナプルナの家族がサントシュの家族同様、最初このことを不愉快に思ったのは無理ありません。しかしアンナプルナは法的にも、自分が選んだ人と結婚できる年齢になっていました。

アンナプルナは信仰の目を通してこの状況を

解釈し、こう語っています。「もしも両親とほかの人たちを喜ばせるために結婚していたならば、子供たちは教会を決して知る事ができず、わたしはすべての責めを自分の頭に受けていたでしょう。この一つの出来事がわたしと子孫の人生を変えたのです。現世では、両親はわたしのことを不愉快に思うかもしれませんが、永遠においてはわたしのことを喜び、また誇りに思ってくれるでしょう。」実際、アンナプルナの両親は今では、この結婚を以前よりも受け入れています。またサントシュのことも気に入っていて、彼の両親と一緒に時間を過ごすようにさえなりました。

「神様が助けてくださいます」

アンナプルナのもう一つの夢がかなったのは、ついにバプテスマを受けたときでした。チャンディーガルには支部がなかったので、ムララ夫妻はバプテスマのために5時間かけてニューデリーまで行きました。皮肉にも、今やアンナプルナが教会に行くことは自由でしたが、

上——アンナプルナ、ニール、サントシュ。次男のキース・アンモンは2002年7月に生まれました。アンナプルナは自分の息子だけでなく同世代の人々が伝道に出、神殿に入り、インドの教会の指導者になる日を夢見しています。

いちばん近い支部でさえ随分離れた所がありました。「バプテスマを受ける前、教会は家のすぐ近くにあり、ちょうど道の突き当たりの角にあったんです。でも行く機会はありませんでした」と語っています。「今、教会は5時間も離れた所にあり、月に1度しか行けません。」その後アンナプルナは妊娠し、5時間の道のりは過度な負担となりました。



しかし、そのときもう一つの奇跡が起こりました。末日聖徒の2家族がやって来たのです。「神様が助けてくださいます」とサントシュは言います。イギリス人の夫婦、ピア兄弟姉妹がチャンディーガルに引っ越して来ました。ピア兄弟はそこで高速道路の建設に従事していました。ピア姉妹はムララ夫妻にインスティテュートのレッスンを教え、そしてピア家族は毎週ムララ家族と家庭の夕べも開きました。間もなく、韓国人のムーン家族もチャンディーガルに転入し、ムーン兄弟はその建設会社に勤め始めました。それから2年の間、毎週、この末日聖徒の小さなグループはムーン家に集い、聖餐会を開いたのです。チャンディーガルでのサントシュの実習期間が終わって間もなく、ピア家族とムーン家族も転出しました。

アンナプルナの大切にしてきた夢がついに実現したのは、サントシュ、ニールとともに、中国香港神殿で2001年6月に結び固められたときです。



現在、サントシュが心臓外科手術の専門的訓練を受けているニューデリーには、二つの支部があります。アンナプルナは福音についての知識は前からあったのですが、今では教会の運営についての知識も同じくらいに増えました。賛美歌を歌ったり、集会の司会をしたりする方法も学びました。

次の世代への夢

2001年6月19日、アンナプルナの24歳の誕生日に、子供のころからの夢であった神殿結婚がついに実現しました。最初の子供のニールがようやく2歳になるころ、ムララ家族は中国香港神殿まで旅したのです。神殿で過ごした丸5日間のうち、最も神聖ですばらしい瞬間は、夫婦がお互いに結び固められ、また息子と結び固められたときでした。

今ではムララ夫妻はきわめて多忙な毎日を送っており、アンナプルナは初等協会会長、サントシュはニューデリー第1支部の支部長を務めています。またサントシュは18時間または36時間連続のシフトで勤務しており、毎週病院で過ごす時間は約100時間にも上ります。教会の責任のために日曜は空けておく必要があるため、サントシュは休日にも働いています。ですからアンナプルナは、二人の幼い子供の世話と、重い責任を持つ夫を支えることに自分の時間の大半を費やしています。

アンナプルナは今でも夢を見続けています。両親に福音を分かち合うという夢です。また、自分自身の子供とほかの人々の子供たちが、インドで最初の世代として初等協会やセミナーに出席し、若い男性や若い女性となり、やがて教会の力強い指導者になる日を夢見ています。自分の子供たちが伝道に出るときのことを、また神殿に入るときのことを夢見ています。さらに、いつの日かインドに神殿が建てられるという夢さえているのです。■

ローシェル・ウェルティは夫のロイとともに、インド・バンガロール伝道部で奉仕しました。ジャン・ピンボローは、ソルトレーク・イーストミルクリーステーク、イーストミルクリーステーク第4ワードの会員です。





時間を管理し、バランスを保つ

時間を管理し、生活のバランスを保つことは難しいときがあります。しかし、不可能ではありません。主はわたしたちに次のように言われました。「まず神の王国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて添えて与えられるであろう。」(3ネーファイ13:33)。正しい優先順位を持つなら、たいていの場合、物事は自然に整理されていくものです。バランスを保つためのアイデアをご紹介します。

📅 生活の中で主を第一にしましょう。毎日必ず、祈りと聖文を読むための時間を作りましょう。

📅 予定を整理しましょう。「実行」リストを作成するか、スケジュールを立てましょう。

📅 優先順位をつけましょう。最も大切なことを見極め、最初にそれを行いましょ。

📅 重要な行事をカレンダーに書き込み、頻繁に確認しましょう。

📅 安息日を聖く保ちましょ。一日の時間が短すぎて、やるべきことがすべてできていないと感じるかもしれませんが、日曜日は主の日であることを忘れないでください。従順であるなら、主は祝福されるでしょう。

📅 「与えられた力と手段以上に急いだり、それ以上に働いたりすることのないようにしなさい。しかし、最後まで励みなさい。」(教義と聖約10:4)。自分に与えられた時間を最大限に利用し、あまり重要でない活動を省くことも考えましょ。

📅 助けを求めましょ。肩の荷が重くなりすぎて、どうしたらよいか分からなくなったら、家族、友人、教師に助けを求めましょ。

📅 助けを得られるように祈りましょ。天の御父はあなたが経験しているプレッシャーを御存じで、負担が軽くなるように助けてくださいます。

📅 御霊に耳を傾けましょ。計画外のことをするように促されることがあるかもしれません。

📅 日程を立てるとき、分刻みに予定を入れないようにしましょう。家族や奉仕のため、そしてリラックスして自分のために使える時間を残しておきましょ。■



教会に連れ戻し



てくれたダンス

わたしはダンスが大好きでした。それがきっかけで、ステーキの青少年ダンスの夕べに招かれたのです。でも、当時は、一つ一つのステップを踏むごとに教会での活動と奉仕に戻っていくことになろうとは、知る由もありませんでした。

七十人
ネッド・B・ローシェイ

10代の終わりごろ、自分の人生、つまり永遠に続く人生を変える電話を受けました。

わたしの属するワードのある姉妹から電話を受け、数週間後に開催を控えたミューチャル活動の夕べでダンスを披露してほしいと頼まれたのです。ダンスはわたしの趣味で、ソルトレーク・シティにあるスタジオで社交ダンスを習っていました。当時はまだ一度も教会のダンス活動に参加したことがなく、ダンスの発表の誘いを引き受けたときには、胸がわくわくしました。

わたしとパートナーが約束の日に着したときには、熱烈な歓迎を受けました。驚いたことに、当日のプログラムで踊るのはわたしたちだけだったのです。それは心躍る経験であり、その晩は思う存分楽しむことができました。

次の日曜日の朝、わたしは執事の職に召されてから初めて自分のワードの礼拝行事に参加することにしました。当時、家族の中で活



わたしはワードでダンスクラスを教える手伝いをするように依頼されました。このような機会を通じて、自分が必要とされていると感じただけでなく、これはわたしにとって一つの責任ともなりました。

発な会員は一人もいませんでした。教会では、わたしを温かく迎え、真の友情と心遣いを示してくれる人々を見いだしました。このような経験がきっかけとなって、わたしは自分の生涯にわたり喜びをもたらす教会の活動と奉仕への道を歩き出したのです。

活発になる

何人かの兄弟たちがわたしを守り、導いてくれたので、互いに良い友人関係を築くことができました。すばらしい帰還宣教師が福音の基礎的な事柄を教えてくれたおかげで、伝道に出る備えができました。これと時を同じくして、わたしはワードでダンスクラスを教える手伝いをするように依頼されました。このような機会を通じて、自分が必要とされていることを感じただけでなく、これはわたしにとって一つの責任ともなりました。

それからの15か月は、大きく進歩し、幸福に満たされながら、瞬く間に過ぎました。やがて、わたしはメキシコでの伝道の召しを受けましたが、すぐにこの国と言葉と人々が大好きになりました。イエス・キリストの回復された福音のメッセージを分かち合う中で、



皆さんの周囲に
目を配り、
あまり活発で
ない会員や教会員で
ない人を探して
ください。
友人となってください。
そうすれば、
影響を及ぼし、
将来何世代にも
わたって彼らの人生を
祝福するようになる
でしょう。

自分のその後の生涯の土台が築かれました。

勧め

友人と責任と神の善い言葉による養いを得ることが意味するものをわたしは知っています。自分の人生に何が欠けているのか理解していない人、救い主の愛を知ることによって得られる温かい気持ちに飢え渴いている人がたくさんいます。こうした善良な人々は、いわば眠ったままの状態であり、「よい知らせ」を携えて隣人が魂を目覚めさせてくれるのを待っているのです。わたしたちに注目し、言動を観察し、「すばらしい模範だ。どうやったら自分もあのようにになれるのだろうか」と考える人々がいるのです。

皆さんの周囲に目を配り、あまり活発でない会員や教会員でない人を探し、友情の温かい手を差し伸べるようお勧めします。皆さんとともに教会の活動に参加するよう彼らを誘ってください。友人となってください。そうすれば、影響を及ぼし、将来何世代にもわたって彼らの人生を祝福するようになるでしょう。

「人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい。

見よ、主なるあなたがたの贖い主は、肉体において死を受けた。それによって、すべての人が悔い改めて自分のもとに来ることができるように、主はすべての人の苦を引き受けた。

そして、悔い改めを条件として、すべての

人を自分のもとに導くことができるように、主は再び死者の中からよみがえったのである。

人が悔い改めるとき、主の喜びはいかに大きいことか。」(教義と聖約18:10-13)

わたしはすべての人に、主のもとに来て回復されたイエス・キリストの完全な福音がもたらすすばらしい祝福を享受するようお勧めします。

人の言い伝えや生活を乱すあらゆる事柄、モロナイの言う「正しい道」(モロナイ6:4)から引き離そうとするあらゆる事柄を捨て去りましょう。わたしたちを贖ってくださった御方、救い主イエス・キリストに心を向け、従おうではありませんか。

心の思いに耳を傾け、その促しに従ってください。そうすれば高い所から教えを受け、祈りの答えを受けることでしょう。

多くの人を主のもとに導き、彼らが神の善い言葉で満たされ養いを受け、主の温かい愛を知るように、以前にも増して熱心に働きましょう。

ずっと昔のあの夜、自分の才能を分かち合うよう勧められたときに、教会での友人と活動というすばらしい新たな世界への扉が開かれたのです。温かい友情の手を差し伸べ、仲間として受け入れ、養い、人生に祝福を与えてくれた人々に感謝しています。

最後に、この教会はイエス・キリストの教会です。ほかのいかなる喜びも、主の愛にあふれた温かなメッセージが霊を燃え立たせるときに味わうものには匹敵しません。この貴いメッセージを伝えるとき、わたしたちが皆、与える者も受ける者も、祝福されるようお祈りします。■

この話は、1999年4月の総大会の説教を基に書かれました。

わたしの傷を癒す傷



エルビン・メンシア

わたしには自転車に乗っていたときにできた傷が一つあります。また、罪と怠慢によって受けた別な種類の傷もあります。それは、イエス・キリストの贖いによって治る傷です。

10代のころ、わたしはある友人とよく傷跡比べをしました。子供時代のわたしたちはとても活発で、あとに残ってしまった傷がたくさんあったのです。中でも、二人ともまったく同じ場所に大きさも形もそっくりな傷がありました。二つの傷跡は左ひざにあり、どちらも自転車に乗っていてできた傷でした。

7月のある涼しい夜、この友人が妹さんと二人の若い男性を伴って、ホンジュラスのわたしの家に来てくれました。宣教師はわたしたち家族に福音を教え、わたしたちは

4週間後にバプテスマを受けました。

福音を見いだしたわたしは、人は皆霊的な傷を負っていることに気がつきました。その傷は肉体の傷と同様、怠慢により、あるいは安全基準に違反した結果できたものです。この場合の安全基準とは、神の戒めのことです。どんな薬も外科治療も、これらの傷を治すことはできません。ただ、救い主イエス・キリストの贖いだけがわたしたちを癒すことができるのです。痛みを和らげることができるのは、悔い改めと救い主への信仰だけです。平安を授けることのできる医者には、救い主だけだの御一人です。

今、自分の傷跡に目をやると、別の傷のことが思い出されます。主の手、足、そしてわき腹にある傷です。主の傷は、わたしの傷を癒すことのできる傷です。■

エルビン・メンシアは、ニカラグア・マナグア伝道部で働く専任宣教師です。



大管長
デビッド・O・マッケイ
(1873-1970年)

この教会のすべての若い男性[と若い女性]に申し上げたいと思います。成功と幸福を望み、知的、肉体的、霊的な強^{きょうじん}さを保ちたいと願う人は、欲望や情熱にふけるという誘惑に打ち勝つことでしょう。

大管長
デビッド・O・マッケイ
Conference Report,
1945年4月, 123

ダンデー

あの馬は非常に利口でした。……
時としてそれが災いとなりました。

わたしはある血統のいい雄の子馬を調教するのを楽しみとしていました。その子馬は気立てがよく、澄んだ丸い目をしていました。バランスの取れた体格で、どこを取っても優秀な馬でした。乗り手の指示に喜んで従い、馬として最高の協調性を発揮しました。この馬と飼い犬のスコッティーは実によい友達でした。何か恐れを抱いているものにも向かって行くこの馬の姿がわたしは好きでした。乗り手であるわたしの指示に従っていれば傷つくはずはないという確信に満ちていました。

しかし、このわたしの馬、ダンディーはつながれるのを嫌がりました。つながれたときは機嫌が悪く、放してもらえるまでロープをかじるのでした。ダンディーは決して逃げたりはしませんでした。ただ、自由でいたかったのです。ほかの馬も自分と同じように感じていると思うのか、ダンディーはほかの馬のロープもほどこうとするのでした。牧場に閉じ込められるのも嫌がり、囲いの鉄線に針のない箇所を見つけると、鉄線を前足で器用に押し下げ、囲いの外に出て行くのでした。近所の人が親切にもダンディーを連れ戻してくれたことが一度ならずありました。ダンディーは門扉^{もんび}でさえも開けられるようになったのです。ダンディーが何かを壊す度に憤慨させられることがしばしばありました。時には高額^{こうごう}の修理代を払わなければならないこともありました。けれどもわたしはダンディーの知

性と独創性に一日置いていました。

しかし、ダンディーの好奇心と牧場の周りを探検したいという欲求は、ダンディーばかりかわたしをも災難に巻き込みました。一度は高速道路で車にはねられました。車は大破し、ダンディーもけがをしました。運転手は大したことはなかったものの軽傷を負いました。

事故のけがから回復した後も、相変わらず自由を求める気性に駆り立てられて、ダンディーは牧場の囲いを隅々まで調べていました。しかし門扉までが針金で堅く閉じられていたのです。これでしばらくの間、ダンディーを牧場の中に閉じ込められると思いました。

しかしある日、だれかが門扉を針金で縛るのを忘れてしまいました。そのことに気づいたダンディーは、門の留め金を外し、別の馬を1頭連れて隣の牧場へ入って行きました。そして、倉庫として使われている古い家の前に来ると、好奇心に駆られたダンディーは扉を押し開けたのです。そこには穀物が1袋置いてありました。何とすばらしいごちそうでしょう。でも、それが悲劇でした。その穀物は毒入りの殺鼠剤^{きつそ}だったのです。数分のうちにダンディーともう1頭の馬は断続的に襲ってくる激痛に苦しみだし、間もなく2頭とも死んでしまったのです。

皆さんのような若い人たちとダンディーには何と多くの共通点があることでしょう。皆さんは決して悪い人たちではありません。間違ったことをしようなどと思っているわけでもありません。ただ活力にあふれ、衝動的に



イ

行動してしまうのです。好奇心おうせい旺盛で何か行動を起こそうとわくわくしているのです。皆さんもひもでつながれると落ち着かないでしょう。しかし、方向を定められないままにさまようようなことがあると、多くの場合誘惑に満ちた環境に身を置くことになり、悪しき者のわなに陥ってしまうのです。■

この話は、1968年10月の総大会の説教をもとに書かれました。

わたしの人生には目的があるのでしょうか

マイケル・レンカー

わたしは常々、人生には目的があるのだろうかと考えてきました。しかしこのとき、それは重大な問題となっていました。わたしはまだ22歳でしたが、突然まったくと言っていいほど、足に力が入らなくなってしまったのです。わたしはこう思いました。「恐らく、近所の

ディスコで踊りすぎたのが原因だろう。一時的なものさ。」

医師の診察を受けたところ、筋肉の病気であると診断され、すぐに専門機関を紹介されました。このときから、母国ドイツで病院を転々とする日々が始まったのです。幾つもの検査を受けましたが、何ら異常が発見されることはありませんでした。痛みは依然としてひどく、力が入りませんでした。それは耐え難いことでした。検査結果に異常がなかったため、だれからも仮病だと思われてしまいました。わたしは孤独を感じ、人生の目的をずっと求めてきたにもかかわらず、結局見いだせずにいました。

わたしはこの新しい友人からモルモン書を渡され、読み始めました。すると教会のことが頭から離れなくなりました。



このころ、ドイツのコブレンツにある病院を紹介されました。そこでわたしは、自分と年齢に近い、一人の女性に出会いました。彼女はほかの患者とは様子が違っていました。重病を患っていたにもかかわらず、自分の人生に対して前向きだったのです。ある日曜日に、廊下でよそ行きの服を着ている彼女を見かけました。どうしてそんな格好をしているのか尋ねると、このような答えが返ってきたのです。「教会に行っていたんです。」

わたしは長いこと宗教には関心がありませんでした。プロテスタントの両親のもとで育ちましたが、宗教というものは無意味な説教でしかないと感じていました。神が存在することは認めていましたが、世の中の組織立った宗教についてはあまり興味がなかったのです。

「教会ですか。」わたしは驚いて答えました。そしてどこの教会に行っているのかを尋ねたのです。

その女性はこう答えました。「末日聖徒イエス・キリスト教会です。」わたしは顔が青ざめていきました。何だろうそれは、奇妙な宗派なのだろうかと思いを巡らしました。そしてその教会について質問を数多く投げかけました。その女性は多くの試練を経験しているにもかかわらず、神を疑っていませんでした。そして天の御父に祈り、信頼していたのです。わたしは魅了されたのと同時に、恐れを感じました。

わたしはこの新しい友人からモルモン書を渡され、読み始めました。間もなくコブレンツの宣教師が福音について教えてくれました。その後、わたしは治療のために転院することになりました。この友達は何度も訪ねて来てくれました。わたしはモルモン書を手もとに置いて、読み続けました。そして人生について多く

を学び、初めて真の友人を得たのです。

病院から一時帰宅したとき、ゾーリンゲンに住むその友達と家族を訪問しました。わたしはこれほど優しい家族にこれまで会ったことがありませんでした。そして日曜日には彼らとともに教会に集まりました。病院に戻ってからも、教会のことが頭から離れませんでした。モルモン書が真実であることは何となく理解していました。しかし、そのときすべてがより明確になったのです。そしてある思いが心にわいてきました。「教会に入るべきなのだろうか。」

やっと退院できたわたしはフルダの実家に戻りました。その後ゾーリンゲンの友人家族から、また遊びに来るように招待を受けました。そして前回よりもさらに温かい歓迎を受けました。わたしは福音についてさらに学び、バプテスマを受ける決心をしました。フルダに戻ってから地元の宣教師を見つけ、残りの福音のレッスンを受けました。わたしはようやく人生の目的を見いだし、バプテスマを受けたのです。

わたしは、神の福音と教会を見いだせるよう助けてくださった天の御父に心から感謝しています。現在は足の痛みもなくなりました。医師は痛みの原因を見つけることはできませんでした。けれども、もし病気になるのであれば、わたしは今でも人生の目的を探していたことでしょうか。何と愛のある御方なのでしょう。御父はだれも見捨てたりなさらないのです。

わたしはこの病気から何を学ぶ必要があるのか考えていましたが、今ならその答えが分かります。■

マイケル・レンカーはユタ州イーグルマウンテンステーク、シーダーパス第6ワードの会員です。

断食と祈りをもって

ルツ・ロドリゲス・ソテロ

息子のイラード・マニュエルが1990年にバプテスマを受けたとき、息子は食料品店で働いていました。その店では日曜日や休日の出勤が義務づけられていました。ペルーの経済状況はかなり厳しいもので、仕事は少なく、たくさんの人が失業しています。ですから息子が転職するのは、ほとんど不可能のように思えました。

息子はこう言いました。「^{じょうぶん}自分の一を払うよ。主に信仰があるから、何とか日曜日に休める仕事を見つけられるさ。」

息子が異なった信仰を持つ若い女性と結婚したとき、わたしたち家族はいつか彼女も末日聖徒になることを望みました。ある日曜日、わたしが教会に出かける支度をしていると、驚いたことに彼女は「わたしも一緒に教会に行きます」と言ったのです。

宣教師は彼女に福音を教え始め、1997年にバプテスマを受けたのです。1998年9月10日、息子とその妻カーチャは神殿で永遠に結び固められました。そして1998年10月12日にかわいい男の子が生まれました。

この期間、息子は日曜日に働かなくてもよい仕事を探し続けました。家族全員で祈り、断食をし、息子が教会で召しを果たせるよう、新しい仕事を主に願いました。

ついに息子は、新しい仕事が見つからなくても1か月後には仕事を辞めることを決心しました。だれもが失業している中であってわたしたちはとても心配しました。しかし息子はこのように言ったの

です。「主を信じているよ。日曜日に休める仕事を見つけられるよう主が助けてくださるという確信があるんだ。」

息子の勤めていた食料品店には大きな倉庫があり、すべての商品はそこから店に配送されていました。場所は遠かったのですが、倉庫で働く従業員は日曜日に休みがありました。驚いたことに、息子はその倉庫に配属されることになったのです。わたしたちは喜びました。天の御父はわたしたちの祈りを聞いてくださったのです。そして息子は、教会で副監督の召しを受けました。

信仰をもって、また断食と祈りをもって願い求めるとき、主はわたしたちを祝福してくださいませ。■

ルツ・ロドリゲス・ソテロはベルー、アレキバ・ザマコラステーキ、ザマコラワードの会員です。

リネットの証

リア・ブルー・ライト

その日はカリフォルニア州サンベルナルディノ山脈を散歩するのにちょうどよい天気でした。わたしたちの7人の子供たちは杖を見つけ、夫のマークが先頭を歩きました。立ち止まって精巧に張られたくもの巣に感動したり、高い松の木が天に向かって枝を伸ばしている姿を見上げたりしました。鳥はまるでわたしたちだけのために歌っているかのようでした。

やがて、わたしたちは証会を開くのに最適な場所を見つけました。古い切り株に腰をかけ、円くなるように座りました。マークは、わたしや子供への愛を述べ、福音が真実であること、また神殿結婚に

よって得た祝福について証しました。

わたしが証を述べた後で、子供たち一人一人が、年上の子から順番に家族への愛について話しました。

最後に4歳のリネットの番になりました。親指をしゃぶりながら、約1時間も辛抱強く待っていたのです。わたしは尋ねました。「リネット、あなたは何に感謝しているの。」

リネットは澄んだ青い目でわたしを見詰めながら、自信をもって答えました。「イエス様に感謝しているわ。だってイエス様はわたしを愛してくださっているんだもん。」

皆がびっくりしました。わたしたちは1時間もかけて、自分たちの持っているすべてのものに対して愛と感謝を述べてきました。しかし、その祝福が救い主の愛と犠牲によるものであることを忘れていたのです。幼いリネットは、子供ならではの率直さと無邪気さで、わたしたちの信仰の最も大切な部分を教えてくれたのです。

後にわたしは、救い主が幼い子供たちを集めて「あなたがたの幼い子供たちを見なさい」と言われたときのことについて考えました（3ニーファイ17：23）。あの日、確かにわたしたちの幼い子供が教えてくれたのです。■

リア・ブルー・ライトはユタ州ハイラムステーキ、ハイラム第11ワードの会員です。

苦しみによって 結ばれる

アダム・C・オルソン

長年にわたり、わたしの母は健康上の問題と勇敢に闘ってきました。その中でも特にひどかったのは繰り返して起こる偏頭痛でした。痛みの中にあってもすばらしい神権の祝福を受ける機会に恵まれ、家族はさらに一致しました。しかし約束されている癒しを受けるまでには、多くの信仰と忍耐、そしてさらに寛容になることが多く求められました。

わたしはパナマでの伝道から帰還してから、より広い視野に立って母の病気について考えることができるようになりました。当時、17歳の弟も激しい偏頭痛に悩まされていて、衰弱していました。

ある晩遅く、弟が激痛のあまりに泣き叫ぶのが聞こえました。暗がりの中を弟の部屋に行こうとしたとき、部屋の中から母の優しい声が聞こえ、わたしは立ち止まりました。母は弟を安心させようと、恐怖と痛みで泣き叫ぶ弟をなだめていました。ドアの外側に立っていると、わたしには理解できないほどの苦しみのために声を振り絞りながら話す弟の言葉が聞こえました。「お母さん、ぼくは死んでしまうの？」

弟の問いかけに心が痛みました。わたしはゆっくりと部屋に戻ろうとしました。すると母の声が聞こえたのです。母は弟の苦しみが手に取るように分かっていました。母も一緒に泣きながら、大丈夫だと語りかけていたのです。

わたしは胸を打たれました。しかし、

その出来事より重要な意味が分かったのは、それから数年後、贖いについてレッスンを準備しているときでした。救い主がわたしたちのために苦しまれたことについて考えていると、優しく看病をしていた母を思い出したのです。母は弟の痛みを自分でも感じたことがあったため、だれよりも弟を慰めることができました。母は弟の苦しみを理解していたのです。同じ痛みによって弟と結ばれていた母は、弟が試練を経験している間、その傍らにいつも寄り添っていたのです。

同様に、愛する救い主はわたしたちの試練を完全に理解するためにすべての下に身を落とされたのです（教義と聖約122：8参照）。主はわたしたちの罪のために苦しめただけでなく、「御自分の

民の苦痛と病」を身に受けられました（アルマ7：11）。主は完全な贖いを通して、わたしたちが経験するあらゆる病気、かんなん 難難、そして試練を理解しておられるのです。なぜでしょうか。それは主が「肉において御自分の心が憐れみで満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように」するためなのです（アルマ7：12）。

母を見ていて、また贖いについて学んだことによって、わたしは価値ある原則を知りました。悲しみと痛みは、ほかの人を哀れみと愛をもって助けるよう教え

てくれるということです。母がああ晩示してくれた哀れみの模範によって、わたしは救い主が経験された苦しみに対してより大きな感謝の念を抱くようになりました。わたし自身が試練に遭うとき、まるで母が弟を慰めていたように、主の御霊が「[わたしの]弱さに応じて」慰めてくれるのを常に感じることができます。■

アダム・C・オルソンはユタ州バウンティフル東ステーク、バウンティフル第45ワードの会員です。

ドアの外側に立っていると、わたしには理解できないほどの苦しみの

ために声を振り絞りながら

話す弟の言葉が

聞こえました。

「お母さん、

ぼくは死んで

しまうの？」



質疑応答

自分の考えや思いと、聖霊がお与えになる靈感を見分けるには、
どうしたらよいのでしょうか。

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、
教会の教義を公式に宣言するものではありません。

回答

皆さんは、次のようなことを日常的に
経験していませんか。ベッドの傍らにひ
ざまずいて、心の中にある
ことを全部天の御父に
聞いていただき、ア
ーメンと言ってか
ら答えを待って

いると心の中に様々な思いが浮かんでき
ます。これらは靈感でしょうか、それと
も単に自分自身の考えでしょうか。

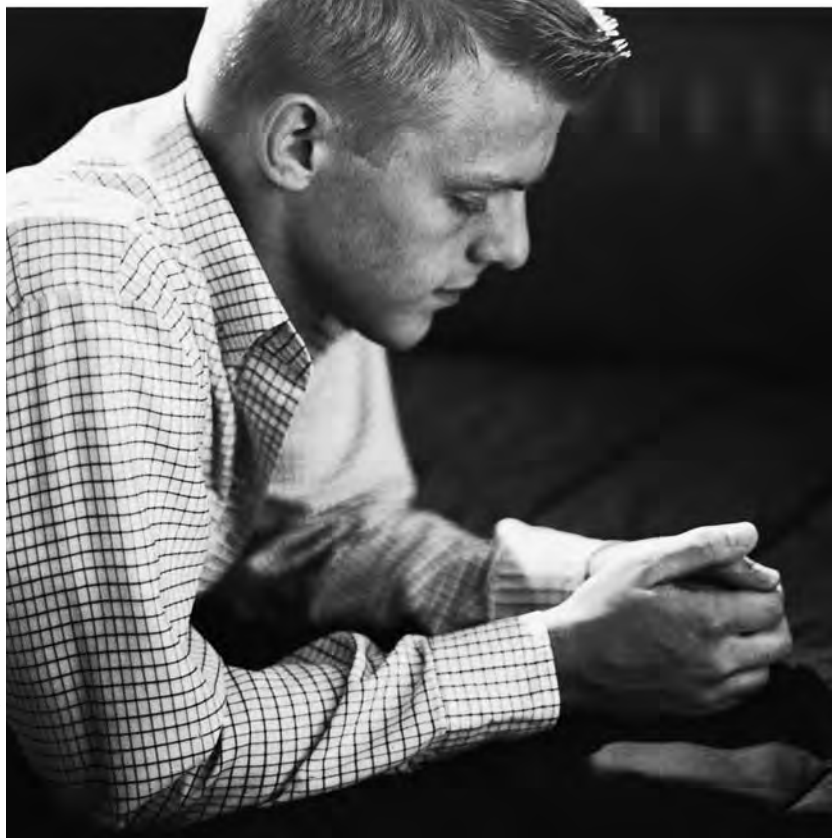
この質問に一言で答えることはでき
ません。なぜなら、これは、霊的な
コミュニケーションの問題だか
らです。啓示を受けて、正
しく理解するのは、簡

単なことではありません。もしそれが簡
単であったとすれば、現世は試しの期間
であるとはとうてい言えなかったこと
でしょう。啓示を受けられるようになるこ
とは、楽器の演奏をマスターすることと
似ています。熱心に行わなければ身に付
かないのです。

幸いにも、主の預言者と使徒たちが、
この件に関して指針を与えています。

預言者ジョセフ・スミスはこのように
教えました。「啓示の霊が最初に何かを
勧めたときにそれに気づくなら、その人
は益を得ることでしょう。例えば、純粋
な英知が流れ込んできたと感じると、急
に様々な考えがわいてくることではし
ょう。そのような啓示に気づくならば、そ
の日のうちに、あるいはそう遠くない將
来に、啓示されたことが成就するのが分
かるのです。(すなわち)神の御霊によ
って心に示された事柄が実際に起こるの
です。このように、神の御霊を経験し、
味わうようになるなら、啓示の原則が身
に付き、ついにはキリスト・イエスにあ
って完成に達することでしょう。」
(*Teachings of the Prophet Joseph
Smith*, ジョセフ・フィールディング・
スミス選 [1976年], 151)

ハロルド・B・リー大管長 (1899 -
1973年) はこのように助言しています。
「わたしたちは皆、努力し、突然にわき
上がる思いによく注意するよう心がける
必要があります。心の中にわき上がるそ
のような考えに留意し、それらのささや
きを聞く耳を養うなら、わたしたちも、
一人一人が啓示の霊によって成長してい



写真/シエラ・A・クラーク、写真の人物はこの記事とは関係ありません。

くことができます。」(『歴代大管長の教え——ハロルド・B・リー』53)

主はこのように言われました。「まことに見よ、あなたに降^{くだ}ってあなたの心の中にとどまる聖霊によって、わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう。さて見よ、これは啓示の霊である。」(教義と聖約8:2-3)つまり、頭にあることが浮かび、それが正しいと心を感じるたびに、あなたは啓示を受けているのです。

主が預言者ジョセフと与えられた助言を覚えておくとよいでしょう。「善を行うように導く、すなわち、公正に行動し、へりくだって歩み、義にかなって裁くように導く御霊を信頼しなさい。これはわたしの御霊である。」(教義と聖約11:12)天の御父に近づけてくれるものであれば、御父の御霊から与えられた靈感と考えてよいでしょう。

啓示を確実に認識したければ、自分で経験する以外に方法はあります。そのためには、何かを行うように啓示を受けたら、実際に行動しなければなりません。信仰を行使して、聖霊から受けた感情に基づいて行動するならば、聖霊をさらに身近に感じるようになり、聖霊の声を聞き分けることができるようになるでしょう。

恐らく、あなたにできる最も大切なことは聖霊を伴侶とするにふさわしく生活することです。ラジオと同じように、生活のどこかに故障した部分があると、聖霊の声をはっきり聞くことはできません。戒めを守り、罪を悔い改めることによって清くなればなるほど、霊的な促しを聞き分ける能力が高められます。

読者からの提案

靈感を受けると心が愛でいっぱいになります。だれでも心に答えを受けることができます。このように言えるのは、わたし自身がそうして答えを受けてきたからです。



タイ・コンケン地方部、
コラト支部、
スリナコーン・スパコト、
15歳

十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老は、聖霊から受けた印象や気持ちに基づいて行動して自分の信仰を試してみるようにと教えました(「知識と強さを得て、賢明に用いる」『リアホナ』2002年8月号、12-19参照)。自分が行ったことが正しいという確信が得られるなら、その印象は聖霊から与えられたものであったと分かることでしょう(エテル12:6参照)。同じ気持ちが何度もわいてきて、そこに確信と平安があり、混乱や疑いがないならば、それは御霊によるものです。

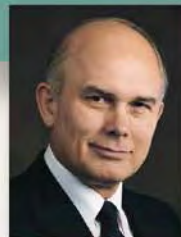


スコットランド・
エジンバラ伝道部、
クリステン・カー姉妹、
21歳

霊的な現れを見分ける方法は人それぞれに違うと思います。わたしたちは御霊がどのような方法で話しかけられるか気づく必要があります。祈ったり福音の勉強をしたりすること、忍耐強くあり謙遜であること、清い心をもって日々生活するよう努力すること、そのようなことをしていれば、必ず御霊を感じられるようになりますと思います。



ブラジル・クリチーバ・
タルマステーク、
バイロアルトワード、
ラケル・アケミ・イノクチ、
15歳



平安と静寂

「御^み霊の教えというものは、心の思いとしてもたらされることがしばしばあります。その事実はきわめて重要でありながら、それが具体的にどういう意味を持つかについては誤解している人もいます。わたしは、これまで『自分の胸が「内から燃や」された思いになった経験がありませんから、聖霊の証^{あかし}を受けたことがありません』と言う人々に数多く出会ってきました〔教義と聖約9:7-8参照〕。

では、『胸が内から燃える』とはどういう意味なのでしょう。栄養物の燃焼によって生じる熱のように、カロリーの熱のようなものを感じるということでしょうか。もしそういう意味だとしたら、わたしは胸が内から燃やされたことはありません。当然、この聖句の『燃やす』という表現は、平安や静寂といった思いのことを意味しています。そういう証をこれまで多くの人々が受けてきているのです。啓示を受けるとはそういうことなのです。」

十二使徒定員会ダリン・H・オークス長老
「御霊によって教え、学ぶ」
『リアホナ』1999年5月号、22

もし靈感を受けたのであれば、胸が内から燃えて正しいと感じることでしょう。靈感でなければ、思いが鈍くなるはずで、自分の考えと御霊とでは、受ける気持ちが変わります。



アリゾナ州
ギルバート・バルビスタステーク、
ギルバート第12ワード、
ジェーン・スター、
17歳

聖霊の導きを感じたいと思うなら、天の御父とイエス・キリストを知ることにならなければなりません。そのためには、できるかぎり清くなる必要があります。断食して祈る必要があります。そうするならば、心に平安を感じることができるでしょう。心が打ち砕かれて悔いているなら、分かりやすく、平安に満ちた、優しい声が、なすべきことを教えてくれるのです。

ボリビア・
ラパス・ミラフローレスステーク、
シオンワード、
シンティア・パメラ・フリマス、
20歳

わたしは、何をなすべきか、だれに話すべきかなど、わき上がってきた思いを書き留めるようにしています。御霊は人の思いに働きかけて導くのです。わき上がってくる思いに従って行動していると、御霊から与えられたものとそうでないものの区別がつくようになります。御霊の言葉は実際に従って初めて、理解できるようになるのです。



アイダホ州ボイシ伝道部、
ニケル・ラエ・クリステンセン
姉妹、
22歳

たとえ難しくても天の御父の戒めを守っているなら、聖霊は導いてくださいます。最善を尽くしているなら、御父は報いてくださるのです。難しい選択を迫られるときに、聖霊はともにいて、導いてくださいます。



デンマーク・オルフスステーク、
シルケボア支部、
マリア・クレス、
14歳

ハロルド・B・リー大管長はこのように教えました。「あなたの理性が知らなかったことを、心が語り始めたとしたら、それは主の御霊を受けているということです。」(『歴代大管長の教え——ハロルド・B・リー』38) 靈感とは声を聞くというよりも心で感じるものです。



ナイジェリア・ラゴスステーク、
イケジャワード、
ウボン・アワク、
23歳

自分が正しいと思うことがいつも絶対に正しいわけではありません。ですから、穏やかで静かなさやきに耳を傾ける必要があるのです。その声は、よく考えるように、そして「イエス・キリストならどうされるだろうか」と自問するようにとささやきます。聖霊は善いことを行うよう導いてくださるのです。



ニューヨーク州クイーンズ
西地方部、レゴパーク第2
(スペイン語)支部、
ヘクサ・パレデス・マリドゥエナ、
20歳

正しい生活を送り、ふさわしい状態で聖餐を受けているなら、聖霊の語りかけをくださることと自分の思いと気持ちが呼応します。靈感というのは頭だけではなく、全身を満たすものです。自分のなすべきことに疑いがわいてこなければ、その感覚は御霊によるものです。疑いがわくのは何をすべきかよく分からないからです。反対に、御霊は何をすべきかをはっきり御存じなのです。



ソルトレーク・
モニュメントパークステーク、
モニュメントパーク第14ワード、
コルビー・パーク、
17歳

「質疑応答」は青少年を対象にしており、様々な国の青少年からの提案を掲載したいと願っています。2003年5月15日までに、あなたの意見をお送りください。あて先は次のとおりです。

Questions and Answers 05/03,
Liahona, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-3223, USA,
またはEメールで

cur-liahona-imag@ldschurch.orgまでお送りください。パソコン、手書き、いずれでもけっこうですが、手書きの場合はかい書で読みやすくお書きください。言語は問いません。住所、氏名、年齢、所属ステーク/地方部、ワード/支部を明記のうえ、写真を同封してください。ただし、返却は致しかねますので、あらかじめご了承ください。

質問——父はとても忙しい人です。わたしも、学校、友達、教会の活動などであまり家にいません。父とはほとんど顔を合わす時間がありませんが、それでも親しい間柄でありたいと思っています。何か良い方法はないでしょうか。■

御存じでしたか？

思いの積み重ね

ジョージ・アルバート・スミス第8代大管長は、1870年4月4日にソルトレーク・シティーに生まれました。13歳のときにはブリガム・ヤング・アカデミーに通学していましたが、後にスミス大管長は次のように語っています。

「ある日[カール・G]メーザー教授が立ち上がり、こうおっしゃいました。

『皆さんは自分の行いだけでなく、心の中に抱く思いに対しても責任を問われるでしょう。』

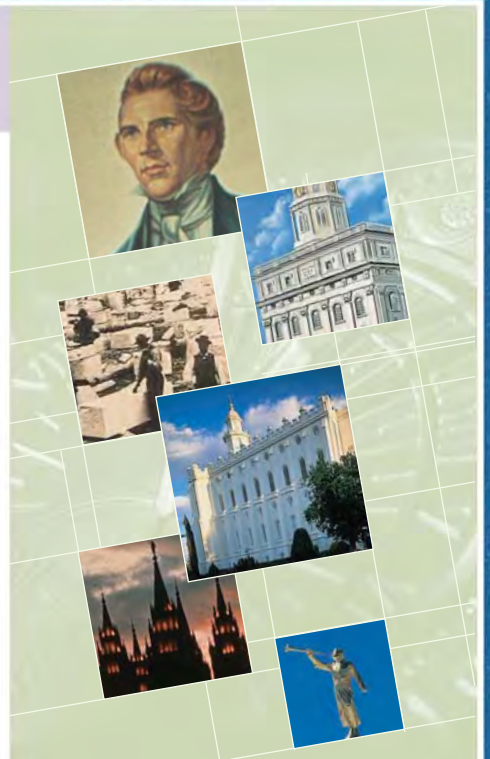
わたしはまだ少年で、自分の思いを治める習慣が身に付いていませんでした。

「どうしたらよいのだろうか、わたしはそのことで随分頭を悩ませました。」

それから1、2週間たって、若きジョージ・アルバート・スミスは次のように理解するようになりました。「なぜ自分の思いにまで責任を問われるのかというと、この世の生涯を終えるときに、その人の人生は日々の思いを積み重ねたものになっているからです。この言葉はわたしの生涯を通じて豊かな祝福となり、様々な状況の中であって、正しからぬ思いを抱くことのないように力を与えてくれました。それはこの世の働きを終えたときに、わたしを形作るの自分自身の思いであるということを肝に銘じていたからです。」
("Pres. Smith's Leadership Address," Church News, 1946年2月16日付, 1)

指導者へのヒント

「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」(箴言3:5-6) 言い換えれば、召しを果たすときには、天の御父が期待しておられることを知るために、聖霊を伴侶とするよう努力するのです。聖霊はあなたを導いてくださいます。聖霊から導きを得たなら、必ず聖霊を信頼し、その促しに従ってください。



それは4月6日の出来事でした

4月6日には教会歴史において重要な出来事が多く起こっています。ほんの数例を挙げてみましょう。

1830年——預言者ジョセフ・スミスが教会を組織しました。

1841年——ノーブー神殿の定礎式が行われました。

1853年——ソルトレーク神殿の隅石が敷かれました。

1877年——ダニエル・H・ウエルズ第二副管長が、ユタ州において最初に完成した神殿であるセントジョージ神殿を奉獻しました。

1893年——ウィルフォード・ウッドラフ大管長が、ソルトレーク神殿を奉獻しました。

2000年——ゴードン・B・ヒンクレー大管長が、ニューヨーク州パルマイラ神殿を奉獻しました。■

ブリガム・ヤング・アカデミーの写真、ジョージ・アルバート・スミスの写真、「1830年4月6日、教会の組織」の一部、デール・キルボーン画、イリノイ州ノーブー神殿の写真/ジェームズ・ポーター、ソルトレーク神殿建設の写真、ユタ州セントジョージ神殿の写真/ケン・ローズ、ソルトレーク神殿の写真、ニューヨーク州パルマイラ神殿のモロナイ像の写真/マシュー・ライアー、祈る人の写真/ケリー・ラーセン、(写真の人物は記事と関係ありません)

『リアホナ』 2003年4月号 の活用法

レッスンのためのアイデア

●「教会に連れ戻してくれたダンス」34ページ——ネッド・B・ローシェイ長老は、ただ才能を披露するよう勧められたことで、人生が永遠にわたって変化したことについて話しています。あなたの周りに、奉仕をしたり、才能を披露したり、ただ参加したりすることなどの簡単な誘いを受けることで、人生が変化するかもしれない人がいますか。その人が教会に戻るのをどのようにして助けられるでしょうか。

●「ダンディー」38ページ——デビッド・O・マッケイ大管長は、好奇心旺盛^{おうせい}で放浪癖があったために早すぎる痛ましい死を迎えたダンディーという名の馬を、ひとときの感情に駆られる若者にたとえています。自制心から解放される^{せいせい}ことが、真の自由とは異なるのはなぜでしょうか。

●「深まるあかし」F2ページ——ジェームズ・E・ファウスト長老は、「人生で最もすばらしい知識」である、イエス・キリストに対する証について話しています。証とはどういうものであるか尋ね、救い主の神性について証を得るにはどうしたらよいか話し合います。自分の証を家族やクラスの人々に伝えましょう。

写真/エドアルド・ピラゴメサ

今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略

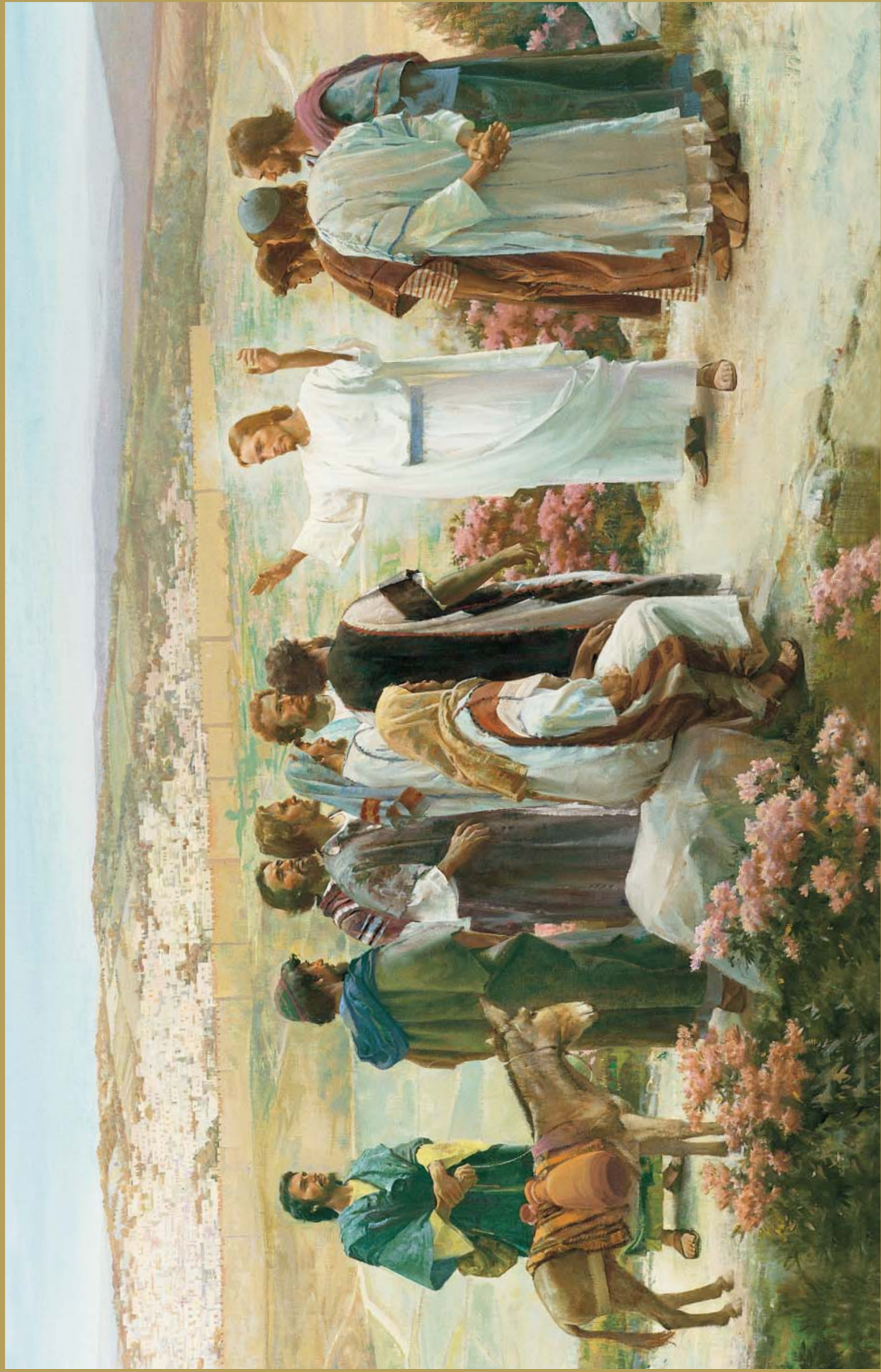
愛F2
証40, F2, F6
贖い26,37, F16
憐れみ40
安息日40
イエス・キリスト2, 18, 22, 24, 26, 37, 40, F6, F8, F10, F13, F16
祈り40, 44
エルサレム8
教え48
改宗30, 37, 40
家族関係18, F2
家庭の夕べ48
家庭訪問25
活発化34
寛容8
逆境40
教会歴史47
悔い改め24, 37
子供40
才能34
死2, 18
自己鍛錬38
指導性47, 48
十字架の刑26, F10, F13
初等協会F6
信仰30, 40
神殿と神殿活動25, 30, F4
新約聖書18, 26, F10, F13
青少年38
聖霊44
世界に広がる教会30
備え1, 25
断食40
慰め2, 18, F2
フェローシップ34
復活2, 18, 22, 26
復活祭2, F8
ホームティーチング7
優先順位33
靈感44

あなたの知識を試してみましょう

復活祭についてどれくらい知っていますか。以下の文は正しいでしょうか、それとも間違っているでしょうか。

1. 復活祭は、救い主が十字架にかけられたことを記念する日である。
2. 末日聖徒は、復活祭の日曜日とともに灰の水曜日(四旬節の第1日)や四旬節も祝う。
3. 復活祭は、すべての国で同じ日に祝う。

答え—1. 誤—復活祭は救い主が復活されたことを記念するための日。
2. 誤 3. 誤—復活祭は世界各国の独自のカルンターで決まる。



「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民に教えよ」ハリー・アンダーソン画

復活の後に「イエスは〔使徒たち〕に近づいてきて言われた、『わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。』」（使徒伝28：18-19より和訳）

それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を教え、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、〔はざいふ。〕」（使徒伝28：18-19より和訳）



上—モスクの伝統的な特徴、ミナレットと呼ばれる尖塔。
左—エルサレムの西の壁。右—ブリガム・ヤング大学
エルサレムセンターからの眺望。下—ゴルゴタ、すなわち、
されこうべの場と思われる場所。

「エルサレムよ、
もしわたしがあなたを
忘れるならば、わが右の手を
衰えさせてください。
もしわたしがあなたを
思い出さないならば、
もしわたしがエルサレムを
わが最高の喜びとしない
ならば、わが舌をあごに
つかせてください。」
(詩篇137:5-6)
「エルサレム」8ページ参照